神の国の福音

これこそが解決策なのです！

イエスが、「神の国が証しとして全世界に宣べ伝えられるまでは、終わりは来ない」と語られたことを、あなたはご存知ですか？



「狼も子羊と共に住み……わたしの聖なる山では、誰も傷つけたり、滅ぼしたりすることはない。主の知識が、海を水が覆うように、地を満たすからである。」（イザヤ書11:6,9）

著者

Bob Thiel, Ph.D.

神の国の福音

これこそが解決策なのです！

Bob Thiel, Ph.D.著

Copyright ©2016/2017/2018/2019/2022/2025/2026 Nazarene Books. 第3.0版。本小冊子は、単独法人である「*継続*する神の教会およびその後継者たち（*Continuing* Church of God and Successors）」のために制作されました。P.O. Box 109, Grover Beach, California, 93483, U.S.A. ISBN: 978-1-63660-113-7。

なぜ人類は自らの問題を解決できないのでしょうか？

聖書が示すところによると、イエスが説教された最初と最後の事柄は、神の国の福音に関するものであったことをご存知ですか？

神の国こそが、使徒たちや、彼らに続いて歩んだ初代信徒たちの説教の核心であったことをご存知ですか？

神の国とは、イエスというお方そのものなのでしょうか？ 神の国とは、今、私たちの中でイエスが御生涯を歩んでおられることなのでしょうか？ それとも、神の国とは、将来実現する何らかの実際の王国なのでしょうか？ あなたは、聖書が教えていることを信じますか？

「王国」とは何でしょうか？神の国とは一体何なのでしょうか？聖書は何を教えているのでしょうか？初期のキリスト教会は何を教えていたのでしょうか？

神の国が証しとして世界に宣べ伝えられるまで、終わりは来ないということをご存じですか？

表紙の写真は、バーディン・プリンティング・アンド・グラフィックス社が制作した、子羊と狼が横たわっている様子を写したものです。裏表紙の写真は、2013年にBob Thiel, Ph.D.が撮影した、エルサレムにある元々の「神の教会」の建物の一部です。

目次

1. 人類には解決策があるのでしょうか？ p. 5

2. イエスはどのような福音を宣べ伝えたのか？ p. 12

3. 旧約聖書において、神の国は知られていたのか？ p. 29

4. 使徒たちは神の国の福音を教えたか？ 教えたのか？ p. 37

5. 新約聖書以外の資料は、 神の御国について説いていた。 p. 57

6. ギリシャ・ローマ系の教会は、神の国が重要であると教えているが、しかし…… p. 81

7. なぜ神の国なのか？ p. 92

連絡先 **p. 103**

注：本書は英語版を人工知能を用いて翻訳したものであり、そのため一部の表現が原文を完全に反映していない場合がありますが、原文に近いものとなっていることを願っています。英語版は www.ccog.org で無料でオンライン閲覧可能です。

1. 人類には解決策があるのでしょうか？

世界は多くの問題に直面している。

多くの人々が飢えている。多くの人々が抑圧されている。多くの人々が貧困に直面している。多くの国が深刻な債務を抱えている。胎児を含む子供たちが虐待にさらされている。薬剤耐性疾患は多くの医師を悩ませている。主要な工業都市では、健康に害を及ぼすほど大気が汚染されている。様々な政治家が戦争をほのめかしている。テロ攻撃が後を絶たない。

世界の指導者たちは、人類が直面している問題を解決できるのでしょうか？

多くの人はそう考えている。

新たな普遍的アジェンダ

2015年9月25日、バチカンの教皇フランシスコによる基調演説の後、国連（UN）加盟193カ国は、時に「*新普遍アジェンダ*」とも呼ばれる「17の持続可能な開発目標（SDGs）」の実施を採択した。国連の17の目標は以下の通りである：

> 目標1.　あらゆる場所におけるあらゆる形態の貧困を終わらせる
>
> 目標2.　飢餓を終わらせ、食料安全保障と栄養状態の改善を実現し、持続可能な農業を推進する

目標3.　あらゆる年齢層の人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

目標4.　包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、すべての人のための生涯学習の機会を促進する

目標5.　ジェンダー平等を実現し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

目標6.　すべての人々への水と衛生の確保および持続可能な管理

目標7.　すべての人々への、手頃な価格で、信頼性が高く、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

目標8.　持続的かつ包摂的で持続可能な経済成長、完全かつ生産的な雇用、そしてすべての人々のための働きがいのある人間らしい仕事を促進する

目標9.　強靭なインフラを整備し、包摂的かつ持続可能な工業化を促進し、イノベーションを育む

目標10. 国内および国間の不平等を削減する

目標11. 都市および人間居住地を、包摂的で、安全で、強靭かつ持続可能なものにする

目標12. 持続可能な消費と生産のパターンを確保する

目標13. 気候変動とその影響に対処するための緊急措置を講じる

目標14. 持続可能な開発のために、海洋、海、および海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

目標15. 陸域生態系の保護、回復および持続可能な利用を促進し、森林を持続可能に管理し、砂漠化と闘い、土地の劣化を食い止め、その傾向を逆転させ、生物多様性の損失を食い止める

目標16. 持続可能な開発のための平和的かつ包摂的な社会を促進し、すべての人に司法へのアクセスを確保し、あらゆるレベルで効果的かつ説明責任を果たし、包摂的な制度を構築する

目標17. 実施手段を強化し、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを活性化させる

このアジェンダは2030年までに完全に実施されることになっており、「*持続可能な開発のための2030アジェンダ*」とも呼ばれている。これは、規制、教育、そして国際的・宗教間協力を通じて、人類が直面する諸問題を解決することを目的としている。その目的の多くは良いものであるが、その手法や目標の一部は邪悪である（創世記3:5参照）。また、このアジェンダは、故教皇フランシスコの回勅『*Laudato Si'*』とも一致していた。 教皇レオ14世も、この2030アジェンダを支持する声明を発表した。

「新しい普遍的アジェンダ」は、「カトリック」という言葉が「普遍的」を意味することから、「新しいカトリック・アジェンダ」と呼ぶこともできる。教皇フランシスコは、
「希望の重要なしるし」と呼んだ。

国連合意のフォローアップとして、2015年12月にパリで会合が開かれた（正式名称は*「国連気候変動枠組条約第21回締約国会議」*）。教皇フランシスコもこの国際合意を称賛し、各国に対し「今後の道を慎重に歩み、ますます強まる連帯感を持って進む」よう助言した。

世界のほぼすべての国が、具体的な環境目標と財政的約束を盛り込んだパリ協定に合意した。　　（当時のバラク・オバマ米大統領は2016年に、米国がこれにコミットすることを約束する文書に署名したが、2017年、ドナルド・トランプ米大統領は、米国が合意されたパリ協定を受け入れないことを表明し、米国を協定から脱退させた。これは国際的な怒りを招き、米国を欧州や世界の他の多くの地域から孤立させる一因となった。）教皇フランシスコは、気候に関する変化を起こさなければ、人類は「滅びてしまう」と述べた。

汚染された空気を吸ったり、飢えに苦しんだり、貧困に陥ったり、生命の危機にさらされたりすることを望む人は誰もいないが、国連の「2030アジェンダ」やパリ協定の目標達成に向けた人類の取り組みは、人類が直面する問題を解決できるのだろうか？

国連の実績

国連は、第二次世界大戦後の1945年10月24日、同様の紛争の再発を防ぎ、世界の平和を促進することを目的として設立された。設立当初、国連の加盟国は51カ国だったが、現在は193カ国となっている。

国連の設立以来、世界中で数百、あるいは数千もの紛争が発生してきましたが、いわゆる「第三次世界大戦」と呼べるような事態は、まだ起きていません。

国連が推進を掲げるような国際協力と、教皇レオ14世や他の多くの宗教指導者が推進しようとしているような、宗教間およびエキュメニカルな取り組み（　）とが相まって、平和と繁栄をもたらすだろうと考える人々もいる。

しかし、国連がこの点で示してきた実績は芳しくない。国連発足以来、数多くの武力紛争が発生したことに加え、数百万もの人々が飢えに苦しみ、難民となり、あるいは極度の貧困に陥っている。

数十年前に、国連は*ミレニアム開発目標（MDGs）*の実施に乗り出した。8つの「開発目標」が掲げられたが、国連自身の評価でも、これは成功しなかった。そこで2015年、いわゆる「17の持続可能な開発目標（SDGs）」が採択された。これを楽観視する者もいれば、ユートピア的な幻想だと考える者もいる。

ユートピアという観点から言えば、2016年5月6日、当時の教皇フランシスコは、カトリック教会がその大陸が達成できるよう支援できる、人道的なヨーロッパのユートピアを夢見ていると語った。しかし、その教皇の夢は、結局のところ悪夢に終わるだろう（『ヨハネの黙示録』18章参照）。

ある程度の協力や成功はあるかもしれないが……

メリアム・ウェブスター辞典によると、ユートピアとは「政府、法律、社会状況が完璧な架空の場所」と定義されています。聖書は、

人類が自らの力だけで問題を解決することはできないと教えています：

> 23　主よ、人の道は自分にはないことを、私は知っています。歩む者が自分の歩みを導くことはできません。（エレミヤ書 10:23、特に断りのない限り、本文はすべてNKJV訳）

聖書は、国際協力は失敗に終わることを教えています：

> 16　彼らの道には破滅と悲惨があり、17　彼らは平和の道を知らない。18　彼らの目の前には、神への畏れがない。（ローマ人への手紙 3:16-18）

それにもかかわらず、多くの人々は自分たちが思い描くユートピア社会の実現に向けて尽力しており、時には宗教を巻き込もうとさえする。しかし、唯一の真の神の道に従おうとする者はほとんどいない。国連やバチカンの目標に向けた進展がまったくないというわけではない。ある程度の進展（その目標の多くは良いものである）もあれば、いくつかの挫折もあるだろう。

実際、おそらく大規模な紛争を経て、ある種の国際的な平和協定が合意され、確認されることになるでしょう（ダニエル書 9:27）。そうなったとき、多くの人々は、人類がより平和でユートピア的な社会を実現しつつあると、誤って信じる傾向にあるでしょう。

多くの人々は、そのような国際的な「ユートピア的な進歩」（エゼキエル書13:10参照）や、さまざまなしるしや不思議（テサロニケの信徒への手紙第二2:9-12）に惑わされるでしょう。 しかし、聖書は、指導者たちが何を主張しようとも（テサロニケ人への手紙第一

5:3；イザヤ書　59:8）、そのような平和は長くは続かないと告げています（ダニエル書 9:27；11:31-44）。

イエスを除いて（参照：ヨハネ15:5、マタイ24:21-22）、人類がこの「現在の邪悪な時代」においてユートピアを実現できるという考えは、偽りの福音である（ガラテヤ1:3-10）。

もし人類だけでは真のユートピアを実現することが全く不可能であるならば、いかなる形のユートピアも実現可能なのでしょうか？

はい。

神の御国は、この惑星を、そしてやがては永遠の世を、驚くほど素晴らしいものに変えてくれるでしょう。

2. イエスはどのような福音を説いたのか？

聖書は、「神の国」と呼ばれるユートピア的な社会が、人間の政府に取って代わることを教えています（ダニエル書　2:44、黙示録11:15、19:1-21）。

イエスが公の宣教を始められたとき、まず***神の国の福音を***宣べ伝えられました。マルコは次のように記しています。

> 14　さて、ヨハネが投獄された後、イエスはガリラヤに来て、神の国の福音を宣べ伝え、15　「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めよ。そして、福音を信じなさい」と言われた。（マルコ1:14-15）

「福音（gospel）」という言葉は、ギリシャ語の「*euangelion*」に由来し、「良い知らせ」または「良いニュース」を意味します。新約聖書において、神の御国に関連する英語の「kingdom」という語は、NKJVでは約149回、*ドゥエイ・リームズ訳聖書では151回言及されています*。これは、王権による統治や領域を意味するギリシャ語の「*basileia*」に由来しています。

人間の王国も、神の王国と同様に、王がおり（黙示録　17:14）、地理的な領域をカバーし（黙示録　11:15）、規則があり（イザヤ書2:3-4; 30:9）、臣民がいます（ルカによる福音書 13:29）。

マタイが記録している、イエスによる最初の公の教えは次のとおりです。

> 23　イエスはガリラヤ全土を巡り歩き、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝えられた。（マタイによる福音書 4:23）

また、マタイは次のように記しています：

> 35　そこで、イエスはすべての町や村を巡り歩き、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝えられた。（マタイによる福音書 9:35）

新約聖書は、イエスが永遠に統治されることを示しています：

> 33　彼はヤコブの家を永遠に治め、その王国には終わりがありません。（ルカによる福音書 1:33）

ルカは、イエスが遣わされた目的が神の国を宣べ伝えることだったと記している。イエスが何を教えられたかに注目しよう：

> 43　イエスは彼らに言われた。「わたしはこの目的のために遣わされたのだから、他の町々でも神の国を宣べ伝えなければならない。」（ルカ 4:43）

そのような説教を聞いたことがありますか？　イエスが遣わされた目的が、神の国を宣べ伝えることだったと気づいたことはありますか？

ルカはまた、イエスが実際に出かけて行って神の国を宣べ伝えたことも記しています：

> 10　使徒たちは戻って来て、自分たちがしたことをすべてイエスに報告した。そこでイエスは彼らを連れて、ベツサイダという町に属する人里離れた場所に、人目につかないように退かれた。11 しかし、群衆はそれを知ると、イエスに従

って行った。イエスは彼らを受け入れ、神の国について語られた。（ルカ 9:10-11）

イエスは、御自分に従う者たちにとって、神の国が最優先であるべきだと教えられました：

> 33 まず、神の国と神の義を求めなさい。（マタイ 6:33）

> 31 むしろ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべてあなたがたに与えられる。32 小さな群れよ、恐れてはならない。あなたがたに神の国を与えることは、あなたがたの父の御心だからである。（ルカ 12:31-32）

クリスチャンは、まず第一に神の国を求めなければなりません。彼らは、キリストが望まれるように生き、キリストの再臨と御国を待ち望むことで、これを最優先事項として実践します。しかし、キリストを信じるという人々の多くは、まず第一に神の国を求めないばかりか、それが何であるかさえ知りません。また、多くの人は、世俗的な政治に関与することが、神がクリスチャンに期待していることだと誤って信じています。神の国を理解していないため、彼らは

今、あるべき姿で生きることも、なぜ人類がこれほど欠陥に満ちているのかを理解することもできません。

また、その御国は「小さな群れ」に与えられるという点にも注目してください（ローマ11:5参照）。真の「小さな群れ」の一員となることを喜んで受け入れるには、謙遜さが必要です。

神の御国は、まだ地上に確立されていません

イエスは、弟子たちが御国が来るよう祈るべきだと教えられました。つまり、彼らはまだ御国を所有していないのです：

> 9 天におられる私たちの父よ、御名が聖とされますように。10 御国が来ますように。御心が成されますように（マタイによる福音書 6:9-10）

イエスは弟子たちを遣わし、神の国を宣べ伝えさせました：

> 1 そこで、イエスは十二人の弟子を呼び集め、すべての悪霊に対する力と権威、また病を癒す力を彼らに与えられた。2 そして、彼らを遣わして、神の国を宣べ伝えさせた。（ルカによる福音書 9:1-2）

イエスは、御自身の臨在そのものが御国ではないと教えられました。当時、御国はまだ地上に確立されていなかったため、イエスはその名によって悪霊を追い出さなかったのです：

> 28 しかし、もしわたしが神の御霊によって悪霊を追い出しているのなら、神の国は確かにあなたがたの上に到来したのです。（マタイによる福音書 12:28）

真の御国は未来にあり、マルコが示すように、今ではない：

> 47 もしあなたの目があなたを罪に誘うなら、それを引き抜け。両目を持って神の国に投げ込まれるよりは、片目で神の国に入るほうが、あなたにとってよいのである……（マルコによる福音書 9:47）

23　イエスは周りを見回して、弟子たちに言われた。「富を持つ者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」 24　弟子たちはその言葉に驚いた。　しかし、イエスは再び答えて彼らに言われた。「子らよ、富を頼りにする者たちが神の国に入るのは、なんと難しいことか！25　富んだ者が神の国に入るのは、らくだが針の穴を通るよりも難しい。」（マルコ10:23-25）

25　「まことに、あなたがたに告げます。神の国で新しいぶどう酒を飲むその日が来るまで、わたしはもはやぶどうの実から造られた酒を飲むことはありません。」（マルコ14:25）

43　アリマタヤのヨセフは、議会の有力な議員であり、自らも神の国を待ち望んでいたが、勇気を奮い起こしてやって来て……（マルコ15:43）

イエスは、神の国は今のこの世の一部ではないと教えられた：

36　イエスは答えられた。「わたしの王国はこの世のものではない。もしわたしの王国がこの世のものであったなら、わたしのしもべたちは戦って、わたしがユダヤ人たちに引き渡されないようにしたであろう。　しかし、今、わたしの王国はこの世から来たものではない。」（ヨハネ18:36）

イエスは、御自身が王として再臨した後に御国が来ることを教えられました：

31 「人の子が、その栄光のうちに、すべての聖なる御使いたちを伴って来るとき、その栄光の御座に着かれる。 32 すべての国々がその御前に集められ、羊飼いが羊と山羊とを分け隔てるように、その方が彼らを互いに分け隔てられる。 33 そして、羊を御自分の右に、山羊を左に置かれる。 34 それから、王は右側にいる者たちにこう言われる。『さあ、わたしの父に祝福された者たちよ、世の創世の時からあなたがたのために用意されていた御国を受け継ぎなさい。』（マタイによる福音書 25:31-34）

神の御国はまだこの世には来ていないため、それが確立されるまでは、真のユートピアを見ることはないでしょう。ほとんどの人は神の御国を理解していないため、神の愛に満ちた統治がどのように機能するのかを理解できていません。

神の国は、「異邦人の数が満ちるまで」（ローマ11:25）は来ない――そして、それはまだ起こっていない。

イエスは、神の国がどのようなものかについて、どのように語られましたか。

イエスは、神の国がどのようなものであるかについて、いくつかの説明をされました。

26 イエスは言われた。「神の国は、まるで人が地に種を蒔くようなものである。27 人は夜寝て、昼起きるが、種は芽を出し、成長する。その人は、それがどのようにして起こるのか、自分でも知らない。 28 土は、それ自体で実を結ぶ。まず葉が伸び、次に穂が出、その後に穂の中に実が満ち

る。29　しかし、実が熟すと、すぐに鎌を入れて刈り取る。収穫の時が来たからである。」（マルコ4:26-29）

18　そこで、イエスは言われた。「神の国は、何に似ているだろうか。何に例えればよいだろうか。19　それは、ある人が取って自分の庭に植えたからしの種のようなものである。それが育って大きな木となり、空の鳥たちがその枝に巣を作った。」 20　さらに主は言われた。「神の国を何に例えようか。21　それは、ある 女性が取り、三セア分の小麦粉の中に隠し、それがすべて発酵するまで待ったパン種のようなものである。」（ルカ 13:18-21）

これらのたとえは、神の国が最初はごく小さいが、やがて大きくなり、最終的には無限の宇宙を支配するようになることを示唆している。

ルカはまた次のように記している。

29　彼らは東から、西から、北から、南からやって来て、神の国に席に着く。（ルカ 13:29）

このように、神の国には世界中から人々が集まることになる。それは、イスラエルの血筋を持つ者や特定の民族グループに限定されるものではない。世界中のあらゆる場所から来た人々が、この国に席に着くのである。

ルカ17章と神の国

ルカ17:20-21は、一部の人々を困惑させます。しかし、その点に触れる前に、神の国では実際に人々が食事をとることになることに注目してください：

> 15 「神の国でパンを食べる者は幸いである！」（ルカ14:15）

人々は（将来）神の国で食事をすることになるため、ルカ17:21の誤訳や誤解が示唆する通り、それが単に今の心の中に留めておくべきものというわけではないのです。

ルカ17:20-21のAFV訳は、理解の一助となるかもしれません：

> 20 さて、パリサイ人たちが、神の国がいつ来るのかとイエスに尋ねたとき、イエスは彼らに答えて言われた。「神の国は、目に見える形で来るものではない。21 また、『見よ、ここにある！』とか、『見よ、あそこにある！』と言うこともない。見よ、神の国はあなたがたのただ中に立っているのだ。」 （ルカ17:20-21、AFV訳；NASB訳およびESV訳も参照）

イエスが語りかけていたのは、回心しておらず、肉欲に支配され、偽善的なパリサイ人たちであったことに注目してください。イエスは「彼らに答えて」おられましたーーイエスに質問したのはパリサイ人たちの方でした。彼らはイエスを認めようとしませんでした。

彼らは「教会」の中にいたのでしょうか？ いいえ！

イエスはまた、まもなく組織されることになる教会について語っていたわけでもありません。心や精神の中にある感情について語っていたわけでもありません。

イエスが語っていたのは、ご自身の「御国」についてだったのです！　ファリサイ派の人々は、教会について尋ねていたわけではありません。彼らは、まもなく始まる新約聖書の教会について何も知りませんでした。彼らは、単なる美しい感情のようなものについて尋ねていたわけでもありません。

もし、神の国が「教会」であると考えるなら――そして神の国がパリサイ人たちの「内」にあったとするなら――パリサイ人たちの内には「教会」があったということになるのでしょうか？　明らかに違います！

そのような結論は、かなり馬鹿げていると思いませんか？一部のプロテスタントの翻訳では、ルカによる福音書17章21節の一部を「神の国は『あなたがたのうち』にある」（NKJV/KJV）と訳していますが、ローマ・カトリックの*『ニュー・エルサレム聖書』*でさえ、それを「神の国はあなたがたの間にある」と正しく訳しています。

イエスはファリサイ派の人々の「間」、すなわち彼らの「真ん中」におられた方であり、その王国の王となられるはずでした。さて、ファリサイ派の人々は、自分たちが神の国を待ち望んでいると考えていました。しかし、彼らはそれを誤解していたのです。イエスは、彼らが考えているような、ユダヤ人だけのための局所的あるいは限定的な王国ではないこと（また、現在一部の人々が信じているような「教会」でもないこと）を説明されました。　神の王国は、人

々が指さしたり見たりして、「これだ、ここだ」とか「あれが王国だ、あそこだ」と言えるような、数ある人間的な目に見える王国の一つに過ぎないものではないのです。

イエスご自身が、その王国の王となるために生まれたのであり、それはイエスがピラトに明言されたとおりです（ヨハネ18:36-37）。聖書では、「王」と「王国」という用語がしばしば同義語として用いられていることを理解してください（例：ダニエル書7:17-18,23）。　将来の神の王国の王は、その場、その時に、パリサイ人たちのすぐ隣に立っておられました。しかし、彼らは彼を自分たちの王として認めようとはしませんでした（ヨハネ19:21）。彼が再臨される時、世界は彼を拒絶するでしょう（黙示録19:19）。

イエスは、ルカによる福音書17章の次の節で、神の王国が全地を支配するようになる再臨について、次のように語られました（モファット訳を使用）：

> 22　イエスは弟子たちに言われた。「人の子のただ一日でも共に過ごしたいと、あなたがたが切に願い求めても叶わない日が来るだろう。23　人々は『見よ、あそこにいる！』と言うだろう。　『見よ、あそこにいる！』と言うだろう。しかし、外へ出たり、彼らを追いかけて行ったりしてはならない。(24)　なぜなら、空の一方から他方へと閃く稲妻のように、人の子もその日には現れるからだ。25　しかし、彼はまず大きな苦しみを受け、この世代に拒まれなければならない。（ルカ17:22-25、モファット訳）

イエスは、マタイによる福音書24:27-31と同様に、全世界を治めるために再臨されることを説明する際、稲妻が光ることに言及されました。イエスは、ご自身が戻ってこられたとき、ご自分の民がイエスを見ることができないと言っているわけではありません――彼らはイエスを見るでしょう（使徒行伝1:11参照）。

しかし、大多数の人々は、イエスを自分たちの王として認めず（黙示録11:15）、イエスに敵対するでしょう（黙示録19:19）！ 多くの人は、イエスが反キリストであると考えるでしょう。イエスは、神の国がそれらのパリサイ人たちの内にあると言っていたわけではありません――イエスは別の箇所で、彼らの偽善のゆえに、彼らは神の国に入れないと告げています（マタイによる福音書23章13-14節）。また、イエスは教会こそが神の国であると言っていたわけでもありません。

神の国とは、人間がいつか「入ることができる」もの――例えば、義人の復活の時のように――なのです！ しかし、アブラハムや他の先祖たちでさえ、まだそこには至っていません（ヘブライ人への手紙 11:13-40 参照）。

弟子たちは、当時、神の国が自分たちの内にあるわけではないこと、そしてそれが次のように現れる必要があることを知っていました。それは、ルカ17:21の後に続く箇所が示している通りです：

> 11　彼らがこれらのことを聞いていると、イエスは別のもじりを語られた。それは、エルサレムに近づいていたからであり、また、弟子たちが神の国がすぐに現れると思い込んでいたからである。（ルカ19:11）

神の国は明らかに未来にありました

神の国が近づいているかどうか、どうすれば分かるのでしょうか。その問いへの答えの一環として、イエスは預言的な出来事を列挙し（ルカ21:8-28）、次のように教えられました：

> 29 いちじくの木や、あらゆる木を見てごらん。30 それらがすでに芽を出しているのを見れば、夏が近づいていることを、あなたがた自身で見て、わかるはずだ。 31 それと同じように、あなたがたも**、これらのことが起こるのを見たら、神の国が近づいていることを知れ。**（ルカ21:29-31）

イエスは、御自分の民が預言的な出来事に注目し、御国がいつ来るのかを知ることを望んでおられました。イエスは他の箇所でも、御自分の民に、目を覚まして預言的な出来事に注意を払うよう告げています（ルカ21:36、マルコ13:33-37）。しかし、イエスの言葉にもかかわらず、多くの人は、預言と結びついた世界の出来事に注目することを軽視しています。

ルカ22章と23章で、イエスは次のように教えられたとき、神の国が将来成就されるものであることを改めて示されました。

> 15 「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をとることを、切に願ってきた。16 あなたがたに言っておく。神の国でそれが成就するまでは、わたしはもはやこれを口にすることはない。」 17 それから、杯を取り、感謝をささげて、こう言われた。「これを受け取り、互いに分け合いなさい。 18 あなたがたに言っておく。神

の国が来るまで、わたしはぶどうの果実から造られたものを飲むことはない。」（ルカ22:15-18）

39　しかし、彼と共に十字架につけられた悪人の一人が、彼を冒涜して言った。「もしあなたがメシアなら、自分を救い、私たちも救ってくれ。」 40　すると、もう一人の犯罪者が彼を叱りつけ、こう言った。「あなたは神さえも恐れないのか。あなたも彼と同じく裁きを受けているではないか。41　私たちは当然の報いを受けている。私たちはそれに値するからだ。私たちは自分の行いに応じて報いを受けているが、この人は何の悪も犯していない。」 42　そして彼はイエスに言った。「主よ、あなたが御国に入られるとき、私を思い出してください。」 43　しかし、イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げる。今日、あなたは私と共にパラダイスにいるであろう。」（ルカ 23:39-43、平易な英語で訳されたアラム語）

マルコとルカの両方が示しているように、イエスが処刑された直後に神の国が到来したわけでもなかった。

43　アリマタヤのヨセフは、議会の有力な議員であり、自らも神の国を待ち望んでいたが、勇気を奮い起こしてやって来て……（マルコ 15:43）

51　彼はユダヤ人の町アリマタヤの出身で、彼自身も神の国を待ち望んでいた。（ルカ 23:51）

ヨハネが記しているように、クリスチャンが神の国に入るために新たに生まれるのは、復活の後（コリントの信徒への手紙一 15:50-55）のことである。

> 3 イエスは答えて彼に言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」4 ニコデモはイエスに言った。「人は年をとってから、どうして生まれることができるでしょうか。もう一度、母の胎内に入って生まれることができるでしょうか。」5 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。水と御霊によって生まれなければ、だれも神の国に入ることはできません。」（ヨハネ3:3-5）

神の民だけが、千年王国の後の究極の神の御国を見るのです。

さて、イエスが復活された後、再び神の国について教えられたことをさらに理解してください。

> 3 また、イエスは苦難の後、多くの確かな証拠をもってご自身が生きていることを示し、四十日の間、弟子たちの前に現れて、神の国に関する事柄を語られた。（使徒行伝 1:3）

イエスが語られた最初と最後の説教は、いずれも神の国に関するものでした！　イエスは、その神の国について教えるために、使者として来られたのです。

また、イエスは使徒ヨハネに、地上に築かれる千年の神の王国について記させました。イエスがヨハネに何を書かせたかに注目してください：

> 4 私は、イエスへの証しと神の言葉のために首を切られて殺された者たち、すなわち、獣やその像を礼拝せず、額や手にその印を受けなかった者たちの霊を見た。そして、彼らは生き返り、キリストと共に千年間統治した。（黙示録20:4）

初期のクリスチャンたちは、聖書が教えているように（参照：黙示録5:10、11:15）、神の千年王国が地上に築かれ、この世の政府に取って代わることを教えていました。

もし神の御国がそれほど重要であるなら、なぜ大多数の人々はそれについてほとんど聞いたことがないのでしょうか。

その理由の一つは、イエスがそれを「奥義」と呼んだことにある。

> 11　イエスは彼らに言われた。「あなたがたには、神の国の奥義を知る恵みが与えられている。しかし、外にいる者たちには、すべてがたとえ話として語られる。」（マルコによる福音書 4:11）

今日でさえ、真の神の国は、神の計画の多くと同様に、大多数の人々にとっては「奥義」のままです（当サイトの無料電子書籍『神の計画の「奥義」――なぜ神は万物を創造されたのか？　なぜ神はあなたを造られたのか？』もご参照ください。www.ccog.org）。

また、イエスが、「（世の）終わりは、御国の福音が全世界に証しとして宣べ伝えられた後に（間もなく）来る」と語られたことも考えてみてください：

> 14　そして、この神の国の福音が、すべての国々への証しとして全世界に宣べ伝えられるとき、その後に終わりが来る。（マタイによる福音書 24:14）

神の御国の福音を宣べ伝えることは重要であり、**この終わりの時代に成し**遂げられるべきことです。それは、政治指導者たちが何を説こうとも、人類の苦難に対する真の希望をもたらす「良き知らせ」なのです。

イエスの御言葉を考えれば、真のキリスト教会が今、この神の国の福音を宣べ伝えるべきであることは明らかでしょう。これが教会にとって最優先事項であるべきです。そして、これを適切に行うためには、複数の言語を活用すべきです。これこそが、 /継続する神の教会」が尽力していることです。そして、それがこの小冊子が数十の言語に翻訳された理由です。

イエスは、大多数の人が御自身の道を受け入れないだろうと教えられました：

> 13　「狭い門から入りなさい。滅びへと通じる門は広く、その道は広々としており、そこを通る者は多い。14　命へと通じる門は狭く、その道は険しい。それを見つける者は少ない。」（マタイによる福音書 7:13-14）

神の国の福音は命へと導くのです！

興味深いことに、キリスト教徒を名乗る人々の多くは、キリストが神の国の福音を宣べ伝えることに重点を置いていたという考えに気づいていないようですが、世俗の神学者や歴史家たちは、聖書が実際に教えているのはこれであるとしばしば理解してきました。

それにもかかわらず、イエスご自身は、弟子たちが神の国の福音を教えることを期待しておられました（ルカ 9:2,60）。将来の王国は神の律法に基づいているため、平和と繁栄をもたらすでしょう。そして、この時代にそれらの律法に従うことは、真の平和へと導きます（詩篇 119:165,172；エペソ 2:15）。

そして、この御国に関する良き知らせは、旧約聖書の記述の中でも知られていたのです。

3. 神の国は旧約聖書で知られていたのか？

記録に残されているイエスの最初と最後の説教は、神の国の福音を宣べ伝えるものでした（マルコ1:14-15；使徒1:3）。

神の王国は、イエスの時代のユダヤ人たちが、現在私たちが旧約聖書と呼んでいる彼らの聖書に言及されていたため、ある程度は知っていたはずのものでした。

ダニエルは神の国について教えた

預言者ダニエルは次のように記しています。

> 40　第四の王国は、鉄のように強くなる。鉄はあらゆるものを砕き、粉々に打ち砕くからである。そして、押しつぶす鉄のように、その王国は他のすべての王国を砕き、押しつぶすであろう。 41　あなたが足とつま先を、一部は陶工の粘土、一部は鉄であるのを見たように、その王国は分裂する。しかし、あなたが見たように、鉄が陶土と混ざり合っていたのと同様に、その中には鉄の強さが残るであろう。42　また、足のつま先が一部は鉄、一部は粘土であったように、その王国も一部は強く、一部は脆いものとなる。 43　あなたが見たように、鉄が陶土と混ざり合っていたように、彼らは人の子孫と交じり合うだろう。しかし、鉄が陶土と混ざり合わないのと同じように、互いに結びつくことはない。44　そして、これらの王たちの時代に、天の神は、決して滅びることのない王国を立てられる。その王国は他の民に譲られることはなく、これらすべての王国を粉々に砕き、

飲み込み、永遠に存続するであろう。（ダニエル書 2:40-44）

18 しかし、至高者の聖徒たちはその王国を受け継ぎ、永遠に、いや、永遠に、そして永遠に、その王国を所有するであろう。（ダニエル書 7:18）

21 「私は見ていると、その角が聖徒たちと戦いを繰り広げ、彼らに打ち勝っていた。 22 しかし、古き日々の御方が来られ、至高者の聖徒たちに有利な裁きが下され、聖徒たちが王国を所有する時が来た。」（ダニエル書 7:21-22）

ダニエル書から、神の王国がこの世の王国を滅ぼし、永遠に続く時が来ることを学びます。また、聖徒たちがこの王国を受け継ぐ一翼を担うことも学びます。

ダニエルの預言の多くの部分は、21世紀の私たちの時代に向けたものです。

新約聖書のいくつかの箇所に注目してください：

(12) 「あなたが見た十本の角は、まだ王国を受けていない十人の王たちである。しかし、彼らは一時間の間、獣と共に王としての権威を受ける。 13 彼らは心を一つにし、その力と権威を獣に委ねる。14 彼らは な小羊と戦いを繰り広げるが、小羊は彼らに打ち勝つ。なぜなら、小羊は主の主、王の王であり、小羊と共にいる者たちは、召され、選ばれ、忠実な者たちだからである。」（黙示録 17:12-14）

このように、旧約聖書と新約聖書の双方において、終わりの時に十の部からなる地上の王国が現れ、神がその王国を滅ぼしてご自身の王国を確立されるという概念が見て取れる。

イザヤが教えた神の国

神はイザヤに霊感を与え、神の王国の最初の段階、すなわち「千年王国」として知られる千年の統治について、次のように記させました。

> 1 イッサイの幹から一本の若枝が芽生え、その根から一本の若木が伸びる。2 主の御霊が彼の上に留まる。知恵と理解の御霊、助言と力の御霊、知識と主を畏れる心の御霊。
>
> 3 主を畏れることを喜びとし、目の見るところによって裁かず、耳の聞くところによって決裁もしない。4 しかし、義をもって貧しい者を裁き、公平をもって
>
> 地上の柔和な者たちのために裁きを下す。彼はその口の杖で地を打ち、その唇の息で悪しき者を滅ぼす。5 正義は彼の腰の帯となり、誠実さは彼の腰の帯となる。
>
> 6 「また、狼は子羊とともに住み、ヒョウは子山羊とともに伏し、子牛と若い獅子と肥えた家畜とが共にいる。そして、幼子が彼らを導く。7 雌牛と熊は共に草を食み、その子らは共に伏し、獅子は牛のようにわらを食べる。8 乳飲み子はコブラの穴のそばで遊び、乳離れした子はマムシの巣に手を入れる。9 わたしの聖なる山では、誰も傷つけたり、滅ぼ

したりすることはない。なぜなら、水が海を覆うように、地は主の知識で満たされるからである。

10「その日、イッサイの根が立ち上がり、民の旗印となる。異邦人は彼を求め、その安息の場所は栄光に満ちる。」（イザヤ書 11:1-10）

私がこれを神の国の「第一部」あるいは「第一段階」と呼んだ理由は、この時期が物理的なものとなる（聖なる都、新しいエルサレムが天から下りてくる時、黙示録21章以前）ものであり、千年間続くからである。イザヤは、次のように続けて、この段階の物理的な側面を確認している。

11　その日、主は二度目に御手を伸ばして、残された御民の残りを、アッシリアやエジプト、パトロスやクシュ、エラムやシナール、ハマテや海の島々から、取り戻される。

12　主は諸国民のために旗を掲げ、イスラエルの追放された者たちを集め、地の四隅からユダの散らされた者たちをまとめられる。13　また、エフライムの嫉妬は去り、ユダの敵は断たれる。エフライムはユダを嫉妬せず、ユダはエフライムを苦しめることはない。 14　しかし、彼らはペリシテ人の肩越しに西へと飛び下り、共に東の民を略奪し、エドムとモアブに手を下し、アンモンの民は彼らに従うであろう。15　主はエジプトの海の舌を完全に滅ぼし、 その力強い風をもって、川の上に拳を振りかざし、それを七つの流れに分けて、人々が裸足で渡れるようにされる。16アッシリアから残される御民の残りの者たちのために、イスラエルがエ

ジプトの地から上って来た日のように、大通りが設けられる。（イザヤ書 11:11-16）

また、イザヤは次のように記すよう霊感を受けた。

> 2 終わりの日に、主の家の山は、諸山の頂に堅く立てられ、丘々よりも高く上げられる。そして、すべての国々がそこへ流れ寄る。3 多くの民が来て言うであろう。「さあ、主の山へ、ヤコブの神の宮へ上ろう。主は私たちに御自身の道を教え、私たちは主の道に従って歩む。」**なぜなら、シオン　から律法が**、エルサレムから主の言葉**が発せられるからである。**4 主は諸国を裁き、多くの民を懲らしめられる。 彼らは剣を鋤に、槍を鎌に打ち直す。**国は国に対して剣を振るわず、もはや戦いを学ぶこともない。**……11 人の高慢な目は低くされ、人の傲慢は屈服させられ、その日、主のみが高められる。（イザヤ書 2:2-4,11）

このように、それは地上に平和が訪れるユートピア的な時代となるでしょう。最終的には、イエスが統治される中で、この状態は永遠に続くことになります。様々な聖書の箇所（詩篇90:4、92:1、イザヤ書2:11、ホセア書6:2）に基づき、ユダヤ教のタルムードは、この状態が1,000年間続くと教えています（バビロニア・タルムード：サンヘドリン篇 97a）。

イザヤはまた、次のように記すよう霊感を受けました：

> 6 見よ、私たちのために、ひとりの子どもが生まれた。私たちのために、ひとりの息子が与えられた。その肩に、支配の重荷がのしかかる。その名は「驚くべき者、助言者、全

能の神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。7 その支配と平和の増し加わりには終わりがない。ダビデの王座と彼の王国において、裁きと正義をもってそれを整え、確立する。その時から、永遠に。　万軍の主の熱意がこれを成し遂げる。（イザヤ書 9:6-7）

イザヤが、イエスが来て、統治を伴う王国を築くと語ったことに注目してください。キリストを信じる多くの人々が、特に毎年12月になるとこの箇所を引用しますが、彼らは、これが単にイエスが生まれるという事実以上のことを預言していることを見落としがちです。聖書は、神の王国には臣民を統べる法律のある統治があり、イエスがその王となることを示しています。イザヤやダニエル、そして他の預言者たちもこれを預言しました。

神の律法は愛の道であり（マタイ22:37-40、ヨハネ15:10）、神の国はそれらの律法に基づいて統治されるでしょう。したがって、世の人々がどのように捉えていようとも、神の国は愛を基盤とするものとなるのです。

詩篇とその他

来るべき神の国について書くよう神から霊感を受けたのは、ダニエルやイザヤだけではありませんでした。

エゼキエルは、大患難の時代に散らされたイスラエルの *すべての部族*（ユダヤ人だけではない）が、千年王国において集められることを記すよう導かれた。

17　それゆえ、こう言え。『主なる神はこう言われる。「わたしはあなたがたを諸国民の中から集め、あなたがたが散らされた国々から招き集め、イスラエルの地をあなたがたに与える。」』 18　彼らはそこへ行き、その地からすべての忌まわしいものと、すべての憎むべきものを取り除くだろう。 19　それから、わたしは彼らに一つの心を与え、彼らの内に新しい霊を授け、彼らの肉から石の心を取り除き、肉の心を与える。20　それは、彼らがわたしの定めを歩み、わたしの裁きを守り、それを行うためである。そうすれば、彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。 21　しかし、その心が忌まわしいものや憎むべきものへの欲望に従う者たちについては、わたしは彼らの行いに応じて、その報いを彼らの頭の上に下す」と主なる神は言われる。（エゼキエル書 11:17-21）

イスラエルの部族の子孫たちは、もはや散らされることはなく、神の定めに従い、忌まわしいものを食べることをやめるであろう（レビ記11章、申命記14章）。

神の御国に関する福音を伝える詩篇の次の箇所に注目してください：

27　地の果てに至るまで、みな主を思い出し、主に立ち返り、諸国のすべての氏族が、あなたの御前で礼拝する。28　御国は主のものであり、主は諸国を治められる。（詩篇 22:27-28）

6 神よ、あなたの御座は永遠に続き、あなたの御国の笏は正義の笏です。（詩篇 45:6）

1 ああ、主に新しい歌を歌え。全地よ、主に歌え。2 主に歌え、その御名をあがめよ。その救いの福音を日々宣べ伝えよ。3 諸国の中でその栄光を告げ、 すべての民の中でその驚くべき御業を語り告げよ。（詩篇 96:1-3；また参照 歴代誌上 16:23-24）

10 主よ、あなたのすべての御業はあなたを賛美し、あなたの聖徒たちはあなたを祝福する。11 彼らはあなたの御国の栄光を語り、あなたの力を語り、12 人の子らに、主の力強い御業と、御国の栄光に満ちた威厳とを知らせるためである。13 あなたの御国は永遠の御国であり、あなたの支配はすべての世代にわたって続く。 （詩篇 145:10-13）

旧約聖書のさまざまな著者たちも、御国のさまざまな側面について記しています（例：エゼキエル書 20:33、オバデヤ書 21、ミカ書 4:7）。

ですから、イエスが神の国の福音を教え始めたとき、その場の聴衆は、その基本的な概念についてある程度馴染みがあったのです。

4. 使徒たちは「神の国の福音」を教えたのか？

多くの人が、福音とは単にイエスという人物に関する良い知らせであるかのように振る舞っていますが、実際には、イエスの弟子たちは神の国の福音を教えていました。それこそが、イエスがもたらしたメッセージなのです。

使徒パウロは、神の国とイエスについて次のように教えました。

> 8 そこで、彼は会堂に入って、三ヶ月の間、大胆に語り、神の国について論じ、説得した。（使徒行伝 19:8）
>
> 25 実際、今や私は、私が神の国を宣べ伝えて回ったあなたがた全員のことを知っています。（使徒行伝 20:25）
>
> 23 そこで、彼らが日取りを決めると、多くの人が彼の宿を訪ねて来た。パウロは彼らに、 神の国について説明し、厳粛に証しし、朝から夕方まで、モーセの律法と預言者たちの言葉の両方から、イエスについて説き明かした。… 31 神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストに関する事柄を、あらゆる確信をもって教え、誰も彼を妨げる者はいなかった。 (使徒行伝 28:23,31)

神の国は単にイエスに関するものではない（イエスはその主要な部分ではあるが）ことに留意すべきである。パウロもまた、神の国について教えることとは別に、イエスについて教えたからである。

パウロはそれを「神の福音」とも呼んでいましたが、それはやはり「神の国の福音」でした：

> [9] …私たちはあなたがたに神の福音を宣べ伝えました… [12] あなたがたが、ご自身の御国と栄光へと招いてくださる神にふさわしく歩むためです。（テサロニケ人への手紙第一 2:9,12）

パウロはそれを「キリストの福音」とも呼んでいます（ローマ人への手紙 1:16）。イエスによる「良き知らせ」、すなわちイエスが教えられたメッセージです。

それは単にイエス・キリストという人物に関する福音でも、個人的な救いに関する福音だけでもなかったことを考えてみてください。パウロは、キリストの福音には、イエスへの従順、イエスの再臨、そして神の裁きが含まれていると述べています：

> [6] …神が、あなたがたを苦しめる者たちに苦難をもって報い、[7] 主イエスが力ある御使いたちを伴って天から現れるとき、苦しめられているあなたがたに、私たちと共に安息を与えてくださるためです。[8] 燃える火をもって、神を知らない者たちや、私たちの主イエス・キリストの福音に従わない者たちに報復をなさるのです。[9] 彼らは、主の御前から、また主の御力の栄光から、永遠の滅びをもって罰せられることになる。[10] 主が、その日、聖徒たちの中で栄光を受け、すべての信じる者たちの間で称賛されるために来られるとき、それは、あなたがたの間での私たちの証言が信じられたからである。（テサロニケの信徒への手紙第二 1:6-10）

新約聖書は、御国が私たちが将来受け取るものであり、今すでに完全に所有しているものではないことを示しています：

28　私たちは、揺るがされることのない御国を受け継ごうとしているのです。（ヘブライ人への手紙 12:28）

私たちは今、神の御国の一部であることを理解し、それを待ち望むことはできますが、まだ完全にその中に入っているわけではありません。

パウロは、神の御国への完全な入り込みは、復活*の後*で起こるものであり、死すべき人間としてそこに入るものではないことを明確に確認しています：

50　さて、兄弟たちよ、私が言いたいのは、肉と血とを持つ者は神の国を相続することができず、朽ちるものは朽ちないものを相続することもできない、ということです。(51)　見よ、私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちは皆、眠るわけではありませんが、皆、変えられるのです――52―瞬のうちに、目を開くほどの瞬きのように、最後のラッパが鳴る時に。　なぜなら、ラッパが鳴り響き、死者は朽ちることのない者としてよみがえり、私たちは変えられるからです。（コリントの信徒への手紙一 15:50-52）

1 それゆえ、私は、その現れと御国において、生ける者と死んだ者とを裁かれる神と主イエス・キリストとの御前で、あなたがたに命じます。

（テモテへの手紙第二 4:1）

パウロはそれを教えただけでなく、イエスが御国を父なる神に引き渡されることについても教えました：

20　しかし今や、キリストは死者の中からよみがえり、眠りについた者たちの初穂となられた。21　なぜなら、死は人によって来たが、死者の復活もまた人によって来たからである。22　すなわち、アダムにおいてすべての人が死ぬのと同様に、キリストにおいてすべての人が生かされるのである。23　しかし、それぞれは自分の順序に従ってです。まず初穂としてキリスト、次に、キリストの来臨の時にキリストに属する者たちです。24　それから終わりが来ます。すなわち、キリストが御国を父なる神に引き渡し、あらゆる支配、権威、力を滅ぼし尽くす時です。25　なぜなら、キリストは、すべての敵を御足の下に置かれるまで、君臨されなければならないからです。（コリントの信徒への手紙一 15:20-25）

また、パウロは、不義な者（戒めを破る者）は神の国を相続しないとも教えています：

9 不義な者は神の国を相続できないことを、あなたがたは知らないのか。惑わされてはならない。淫行をする者も、　偶像礼拝者も、姦淫をする者も、男色をする者も、ソドムの行いをする者も、10　盗人、貪欲な者、酔っ払い、ののしる者、強奪する者も、神の国を相続することはできない。（コリントの信徒への手紙一 6:9-10）

19　さて、肉の行いは明らかであり、それは、姦淫、不品行、不潔、好色、20　偶像礼拝、魔術、敵意、争い、嫉妬、激怒、利己的な野心、不和、異端、 21　妬み、殺人、酩酊、放蕩、およびこれらに類するものです。以前にもあなたがた

に告げたように、あらかじめ言っておきますが、このようなことを行う者は、神の国を相続することはできません。（ガラテヤ人への手紙 5:19-21）

5 あなたがたも知っているように、不品行な者、汚れた者、また貪欲な者、すなわち偶像礼拝者は、キリストと神の御国における相続分などないのです。（エペソ人への手紙 5:5）

神には基準があり、神の御国に入るためには、罪からの悔い改めが求められます。聖霊を受け、また救いを得るためには、神への従順が求められます。

29 …ペテロと使徒たちは…言った、「私たちは、人よりも神に従うべきです。… 32 そして、私たちはこれらのことの証人であり、神に従う者たちに神が与えてくださった聖霊もまた、その証人です。」（使徒行伝 5:29,32、AFV）

5 キリストは……8 御子であられたにもかかわらず、苦しみを通して従順を学ばれた。9 そして、完全になられた後、御自分に従うすべての人にとって、永遠の救いの源となられた。（ヘブライ人への手紙 5:5,8-9）

使徒パウロは、イエスの福音が答えであると教えない者たちが現れるだろうと警告し、別の道も受け入れられると述べた：

3 父なる神と、私たちの主イエス・キリストから、あなたがたに恵みと平安がありますように。4 キリストは、私たちの神であり父である方の御心に従い、私たちをこの現在の邪

悪な時代から救い出すために、ご自身の身を私たちの罪のためにささげられました。[5] 神に、世々限りなく栄光がありますように。アーメン。[6] あなたがたが、キリストの恵みによってあなたがたを召してくださった方から、これほど早く背を向け、別の福音へと向かっていることに、私は驚いています。[7] それは別の福音というわけではありませんが、あなたがたを惑わせ、キリストの福音を歪めようとする者たちがいるのです。[8] たとえ私たちであれ、天からの御使いであれ、私たちがあなたがたに宣べ伝えたものとは異なる福音をあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれよ。[9] 以前にも言ったように、今また言います。もしだれかが、あなたがたが受け入れたものとは異なる福音をあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれよ。 (ガラテヤ人への手紙 1:3-9)

[3] しかし、私は恐れています。蛇がその狡猾さによってエバを欺いたように、何らかの形で、あなたがたの心がキリストにある純真さから逸れてしまうのではないかと。[4] なぜなら、もし誰かが来て、私たちが宣べ伝えていない別のイエスを宣べ伝えたり、あなたがたが受け取っていない別の霊を受け入れたり、あなたがたが受け入れていない別の福音を受け入れたりしたとしても——あなたがたはそれを容認してしまうかもしれないからです！ （コリントの信徒への手紙二 11:3-4）

その「別の」、つまり実際には偽りの福音とは、一体何だったのでしょうか。

偽りの福音には様々な側面があります。

一般的に言えば、偽りの福音とは、神を知っていると主張しながらも、実際には神に従う必要はなく、神の道に忠実に生きるために真摯に努力する必要もないと信じることです（マタイ7:21-23参照）。それは利己的な傾向を帯びています。

約6000年前、蛇はエバを惑わして偽りの福音に陥らせました（創世記3章）――それ以来、人間は自分たちが神よりもよく知っており、善悪を自ら決めるべきだと信じてきました。そうです、イエスが来られた後も、その御名はしばしば様々な偽りの福音に結びつけられてきました――そしてこれは続いており、最後の反キリストの時代まで続くでしょう。

さて、使徒パウロの時代において、偽りの福音は本質的に、グノーシス主義と神秘主義が混ざり合った、真理と誤りの混合物であった。グノーシス主義者たちは基本的に、救いを含む霊的な洞察を得るためには特別な知識が必要であると信じていた。　グノーシス派は、肉体の行いは特に重要ではないと信じる傾向があり、第七日の安息日といった事柄において神に従うことに反対していました。そのような偽りの指導者の一人がシモン・マグスであり、彼は使徒ペテロによって叱責され、警告を受けました（使徒行伝 8:18-21）。

しかし、それは容易なことではない

新約聖書は、フィリポが神の国について教えたことを示しています：

5 そこで、フィリポはサマリアの町へ下り、そこで人々にキリストを宣べ伝えた。… 12 フィリポが神の国について語るのを聞いて、人々は彼を信じた。…（使徒行伝 8:5,12）

それにもかかわらず、イエス、パウロ、そして弟子たちは、神の国に入るのは容易ではないと教えていました：

24 イエスは、その人がひどく悲しんでいるのを見て、こう言われた。「富を持つ者が神の国に入るのは、なんと難しいことか！ 25 富んだ者が神の国に入るのは、らくだが針の穴を通るよりも難しいからだ。」

26 それを聞いた人々は、「それでは、誰が救われることができるのでしょうか」と言った。

27 しかし、イエスは言われた。「人にとっては不可能なことも、神にとっては可能である。」 (ルカ 18:24-27)

22「私たちは、多くの苦難を経て、神の国に入らなければならない。」 （使徒行伝 14:22）

3 兄弟たちよ、あなたがたの信仰がますます深まり、あなたがた一人ひとりの互いへの愛がますます豊かになっているので、私たちは当然のこととして、あなたがたのために常に神に感謝せざるを得ません。4 あなたがたが耐え忍んでいるあらゆる迫害や苦難における忍耐と信仰ゆえに、私たち自身も神の諸教会の中であなたがたを誇りに思っているのです。5 これこそ、あなたがたが神の御国にふさわしい者と認められるための、神の義なる裁きの明らかな証拠であり

、あなたがたもその御国のために苦難に耐えているのです。[6] あなたがたを苦しめる者たちに苦難をもって報いることは、神にとって義なることだからです。[7] また、主イエスが力ある御使いたちを伴って天から現れるとき、苦しめられているあなたがたに、私たちと共に安息を与えるためです。（テサロニケの信徒への手紙第二 1:3-7）

この時代の困難のため、現時点では、この時代においてその一部となるよう召され、選ばれているのはごく一部の人々だけです（マタイによる福音書 22:1-14；ヨハネによる福音書 6:44；ヘブライ人への手紙 6:4-6）。他の人々は後で召されることになります。聖書が示しているように、「霊において迷っていた者たちは悟りを得、不平を言っていた者たちは教えを学ぶ」からです（イザヤ書 29:24）。

使徒ペテロは、御国は永遠のものであり、神の福音に熱心に従わなければ裁きが下ると教えました：

[10] それゆえ、兄弟たちよ、あなたがたの召しと選びを確かなものにするために、なお一層励みなさい。もしあなたがたがこれらのことを行うなら、決してつまずくことはないからです。[11] そうすれば、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の御国への入り口が、あなたがたに豊かに与えられるからです。（ペテロの手紙第二 1:10-11）

[17] なぜなら、裁きが神の家から始まる時が来たからです。もし、まず私たちから始まるのなら、神の福音に従わない

者たちの終わりは、どうなるでしょうか。（ペテロの手紙第一 4:17）

聖書の最後の書と神の国

聖書は、「神は愛である」（ヨハネの手紙一 4:8,16）こと、そしてイエスが神であることを教えています（ヨハネによる福音書 1:1,14）――神の御国には、愛そのものであり、その律法が憎しみではなく愛を支える王がおられます（参照：ヨハネの黙示録 22:14-15）。

また聖書は、神が御国の永遠の福音を宣べ伝える天使を遣わし（黙示録 14:6-7）、続いて、一見偉大に見えるバビロンが滅びることを告げる別の天使を遣わすことを示しています（黙示録 14:8-9）。これらのメッセージは、世界が以前に証しとして受け取っていた福音を、超自然的な形で裏付けるものであり、終わりの時に神のもとに来る「大いなる群衆」（黙示録 7:9-14）にとっての決定的な要因となるでしょう。興り、そして滅びる最後のバビロンの勢力（参照：黙示録 18:1-18）とは異なり、神の御国の最終段階は永遠に続くのです：

> 15 すると、第七の天使がラッパを吹いた。天からは大きな声がして、「この世の王国は、私たちの主とそのキリストの王国となった。主は、世々限りなく統治される！」と言った。（黙示録 11:15）

イエスは御国で統治なさるのです！そして聖書は、イエスの二つの称号を明らかにしています：

16　また、その衣と太ももには、「王の王、主の主」という名が記されていた。（黙示録 19:16）

しかし、統治するのはイエスだけなのでしょうか。次の箇所に注目してください：

4 すると、私は玉座を見、そこに座している者たちを見た。彼らには裁きの権威が与えられていた。また、イエスへの証しと神の言葉のために首を切られて殺された者たち、すなわち、獣やその像を礼拝せず、額や手にその印を受けなかった者たちの霊魂を見た。彼らは生き返り、キリストと共に千年間、支配した……。 6 最初の復活に与る者は、幸いであり、聖なる者である。第二の死は、そのような者たちには権威を持たない。彼らは神とキリストの祭司となり、キリストと共に千年間統治する。（黙示録 20:4,6）

真のクリスチャンたちは復活し、キリストと共に千年間統治することになる！神の国は永遠に続く（黙示録 11:15）が、黙示録 20:6 に記されている、最初に復活した聖徒たちとの統治は、ただ千年間のみであった。だからこそ、私はこれを先ほど、神の国の「第一段階」――すなわち、最終的な、より霊的な段階とは対照的な、物理的な「千年期」の段階――と呼んだのである。

『ヨハネの黙示録』には、神の王国の千年期と最終段階の間に起こるいくつかの出来事が記されています：

7 さて、千年の期間が満了すると、サタンはその牢から解き放たれる。(8) そして、地の四隅にいる諸国、すなわちゴグとマゴグを惑わし、彼らを戦いに集めるために出て行く。そ

の数は海の砂のように多い。… 11　それから、私は大きな白い御座と、その上に座しておられる方を見た。その御顔から、地と天が逃げ去った。　そして、彼らの居場所が見つからなかった。12　また、私は、大小を問わず、死者が神の御前に立っているのを見た。そして、書物が開かれた。さらに別の書物、すなわち「いのちの書」が開かれた。そして、死者は、書物に記されていたこと、すなわち彼らの行いに従って裁かれた。13　海は、その中にいた死者を吐き出し、死と黄泉も、その中にいた死者を吐き出した。　そして、彼らはそれぞれ、その行いに応じて裁かれた。14 その後、死とハデスとが火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。15 また、いのちの書に名が記されていない者は、みな火の池に投げ込まれた。（黙示録 20:7-8, 11-15）

『ヨハネの黙示録』は、千年の統治の後、また、悔い改めと神の道を永久に拒む者たちの「第二の死」の後にも、王国のさらなる段階が訪れることを示している：

1 そこで、私は新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は過ぎ去っていたからである。　また、海ももうなかった。2 そこで、わたし、ヨハネは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられ、神のもとから天から下ってくるのを見た。3 そして、天から大きな声が聞こえてきて言った。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は彼らと住まわれ、彼らは神の民となる。　神ご自身が彼らと共におられ、彼らの神となられる。4 そして、神は彼らの目からあらゆる涙をぬぐい去ってくださる。もはや死もなく、悲しみも、泣き叫ぶこともない。もはや

痛みもない。以前のものはすべて過ぎ去ってしまったからである。」（黙示録 21:1-4）

1 そして、彼は私に、神と子羊の御座から流れ出る、水晶のように澄んだ、いのちの水の清らかな川を見せてくださった。2 その通りの真ん中と、川の両岸には、いのちの木があり、それは十二種類の果実を実らせ、それぞれの木が毎月その実を結んでいた。 その木の葉は、諸国民を癒やすためのものであった。3 もはやのろいはなく、神と子羊の御座がその中にあり、そのしもべたちは神に仕える。4 彼らは神の御顔を見る。そして、彼らの額には神の御名が記されている。5 そこには夜がなく、彼らはランプも太陽の光も必要としない。主なる神が彼らに光を与えてくださるからである。 そして、彼らは世々限りなく治める。（黙示録 22:1-5）

千年の後に*訪れる*この統治には、神のしもべたちが含まれ、それが永遠に続くことに注目してください。天に備えられた聖なる都は、天を離れ、地上に降りてきます。これが、神の御国の最終段階の始まりです。もはや痛みも苦しみもない時代が到来するのです！

柔和な者は地を相続し（マタイによる福音書 5:5）、すべてのものを相続する（ヨハネの黙示録 21:7）。その上に築かれる聖都を含む地は、神の御心が実行されるため、より良いものとなる。次のことを心に留めておいてください：

7 神の支配と平和の増し加わりには終わりがありません（イザヤ書 9:7）

神の御国の最終段階が始まれば、すべての者が神の統治に従うようになるため、明らかに成長が続くでしょう。

これは最も栄光に満ちた時となるでしょう：

> 9 しかし、こう書かれているとおりです。「目が見たこともなく、耳が聞いたこともなく、人の心に思い浮かんだこともないようなことを、神は御自身を愛する者たちのために備えておられる。」10　しかし、神は御霊によって、それらを私たちに啓示してくださったのです。（コリントの信徒への手紙一 2:9-10）

それは愛と喜び、そして永遠の慰めに満ちた時です。それは素晴らしい時となるでしょう！神の御国は、想像を絶するほど素晴らしい永遠をもたらします。あなたもその一員になりたいと思いませんか？

5. 新約聖書以外の出典も神の国について教えていた

初期のキリストの宣教者たちは、文字通りの神の国の福音を宣べ伝えるべきだと考えていたのでしょうか？

はい。

数年前、ノースカロライナ大学のバート・エアーマン教授が行った講演の中で、彼は繰り返し、そして正しく、今日のほとんどの自称クリスチャンとは異なり、イエスとその初期の弟子たちは神の国を宣べ伝えたと強調しました。エアーマン博士のキリスト教に対する全体的な理解は、「*継続する*神の教会」のそれとは大きく異なりますが、神の国の福音がイエスご自身が宣べ伝え、その弟子たちが信じていたものであるという点については、私たちも同意します。また、今日のキリスト教を名乗る多くの人々が、そのことを理解していないという点についても、私たちは同意します。

現存する最古の新約聖書後の文書と説教

神の国は、「現存する最古の完全なキリスト教説教」とされるものの重要な部分を占めています（ホームズ・M・W.　『古代キリスト教説教』 『使徒の父たち：ギリシャ語原文と英語 訳』、第2版、ベイカー・ブックス、グランドラピッズ、2004年、102ページ）。この*『古代キリスト教説教』*には、神の国について次のような記述が含まれています：

> 5:5　さらに、兄弟たちよ、あなたがたもご存じのように、この肉体の世界における私たちの滞在は取るに足らず、つかの間のものであるが、キリストの約束は偉大で驚くべきも

のである。すなわち、来るべき御国における安息と永遠の命である。

上記の記述は、御国が今ここにあるのではなく、将来到来し、永遠に続くものであることを示している。さらに、この古代の説教は次のように述べている。

> 6:9 さて、もしこのような義人たる者たちでさえ、自らの義の行いによって子供たちを救うことができないのであれば、私たちが洗礼を清く汚れのないまま保てなかった場合、神の御国に入るという確信を、いったいどこに持てようか。あるいは、もし私たちが聖く正しい行いをしていると認められなければ、誰が私たちの弁護者となってくれるだろうか。9:6 それゆえ、私たち全員が神の御国に入ることができるように、互いに愛し合いましょう。11:7 ですから、もし私たちが神の御目から見て何が正しいかを知っているなら、神の御国に入り、「耳が聞いたこともなく、目が見たこともなく、人の心も思い描いたことのない」約束を受け取るでしょう。
>
> 12:1 それゆえ、神の現れの日がいつであるか分からないのだから、愛と義をもって、刻一刻と神の御国を待ち望みましょう。12:6 彼は言います、「わたしの父の御国が来る」と。

以上の記述は、正しい生活を通じた愛が必要であること、私たちがまだ神の御国に入っていないこと、そしてそれが神の現れの日、す

なわちイエスが再び来られる後に起こることを示している。それは父の御国であり、その御国は単にイエスだけではない。

興味深いことに、神が存続を許された、現存する最古と思われるキリスト教の説教は、新約聖書が教えるのと同じ神の国、そして現在の「*継続する*神の教会」が教えているのと同じ神の国を説いている（それが実際の「神の教会」に由来する可能性はあるが、私のギリシャ語の知識が限られているため、より確固たる断言はできない）。

2世紀の教会指導者たちと「御国の福音」

2世紀初頭において、ヨハネの教えを直接受けた者であり、ポリカープの友人であり、ローマ・カトリック教会によって聖人と見なされているパピアスが、千年王国を説いていたことに留意すべきである。エウセビオスは、パピアスが次のように教えたと記録している。

> ……死からの復活の後、千年が訪れ、その時にキリストの直接の統治がこの地上に確立される。（『パピアスの断片』VI。エウセビオス『教会史』第3巻、XXXIX、12も参照）

パピアスは、この時代が極めて豊かな時代になると教えた：

> 同様に、[彼は]、一粒の小麦から一万の
>
> 千の穂を結び、それぞれの穂には一万粒の実がつき、一粒ごとに十ポンドの澄み切った純粋で上質な小麦粉が得られるだろう。また、リンゴや種子、草も同様の割合で実を結び、その頃、すべての動物は地上の産物のみを糧として、

穏やかで調和のとれた存在となり、人間に完全に服従するようになるだろう。」 [これらの事柄については、ヨハネの教えを直接聞き、ポリカープの友人でもあった古人パピアスが、著書『パピアスの書』第4巻において書面で証言している。彼は計5巻の著書を著した……]（『パピアスの断片』第4巻）

『*コリント人への手紙*』という新約聖書の*書簡*には次のように記されている：

> 42:1-3　使徒たちは、私たちのために主イエス・キリストから福音を受け取った。イエス・キリストは神から遣わされた。それゆえ、キリストは神からであり、使徒たちはキリストからである。したがって、両者とも定められた順序に従い、神の御心によって遣わされたのである。　それゆえ、彼らは使命を受け、主イエス・キリストの復活によって完全に確信を与えられ、聖霊の完全な確信をもって神の言葉に堅く立てられた上で、神の御国が来るという福音を宣べ伝えるために出かけていったのである。

スミルナのポリカープは初期キリスト教の指導者であり、また、初代使徒の中で最後に亡くなったヨハネの弟子でもあった。ポリカープ（紀元120年頃〜135年頃）は次のように教えた。

> 「貧しい者たち、そして義のために迫害される者たちは幸いである。神の国は彼らのものだからである。」（ポリカープ『フィリピ人への手紙』第2章。アレクサンダー・ロバ

ーツおよびジェームズ・ドナルドソン編『*ニカイア公会議以前の教父たち』第1巻*より。アメリカ版、1885年）

それゆえ、「神はあざけられる方ではない」ということを知っているので、私たちは神の戒めと栄光にふさわしい歩みをすべきである……「あらゆる情欲は御霊に敵対する」のであり、「淫行を行う者、男色にふける者、男と交わる者は、神の国を相続することができない」し、不品行でふさわしくない行いをする者もまた同様であるから、彼らがこの世にある情欲から断ち切られるのは良いことである。（同書、第5章）

それゆえ、私たちも、主ご自身が私たちに命じられたとおり、また、私たちに福音を宣べ伝えた使徒たちや、主の到来をあらかじめ告げた預言者たちのように、畏れと深い敬意をもって主に仕えよう。（同書、第6章）

新約聖書の他の著者たちと同様に、ポリカープもまた、戒めを破る者ではなく、義人こそが神の国を相続すると教えた。

また、ポリカープは次のように教えたとも伝えられている。

そして、次の安息日に、彼はこう言った。「神の愛する子らよ、私の勧めに耳を傾けなさい。　私は、司教たちが同席していた時にあなたがたに厳粛に誓わせたが、今再び、あなたがたすべてに、主の道において品位を保ち、ふさわしく歩むよう*勧める……目を覚まし、再び備えよ。心を重くしてはいけない*。互いに愛し合うことに関する新しい戒め、稲妻のように突然現れる主の到来、火による大いなる裁き

、永遠の命、主の不滅の御国について。　また、神から教えられているあらゆる事柄は、霊感を受けた聖書を吟味すれば、あなたがたは知っているはずである。それらを聖霊の筆をもって心に刻みつけ、戒めが消えることなくあなたがたの中に留まるようにせよ。」（『ポリカープの生涯』第24章。J. B. ライトフット著『使徒の父たち』第3巻第2部、1889年、488-506ページ）

西暦170年頃、神の教会の指導者であったサルディスのメリトは、次のように教えた。

「まことに、律法は福音の中に現れ出た――古いものは新しいものの中に、両者ともシオンとエルサレムから共に現れ出たのである。また、戒めは恵みの中に、型は完成されたものの中に、小羊は御子の中に、羊は人の中に、人は神の中に現れ出たのである……

しかし、福音は律法の解説であり、その

成就となった。一方、教会は真理の宝庫となった……

この方こそが、私たちを奴隷の状態から自由へ、闇から光へ、死から命へ、暴政から永遠の王国へと導き出された方である。（メリト『過越祭に関する説教』7、40、68節。『Kerux: The Journal of Online Theology』からの翻訳。http://www.kerux.com/documents/KeruxV4N1A1.asp）

このように、神の王国は単なる現在のキリスト教会やローマ・カトリック教会ではなく、永遠のものであると認識されており、そこには神の律法も含まれていた。

2世紀中頃から後半にかけて書かれた別の文書は、人々に御国に目を向けるよう勧めている：

> それゆえ、あなたがたのうちだれも、もはや偽りを装ったり、過去を振り返ったりすることなく、進んで神の国の福音に近づきなさい。（ローマのクレメント『認識録』第10巻第45章。『ニカイア公会議以前の教父たち』第8巻より抜粋。アレクサンダー・ロバーツ＆ジェームズ・ドナルドソン編。アメリカ版、1886年）

さらに、真の教会に属する者によって書かれたものではないようだが、2世紀中頃の著作『ヘルマスの*羊飼い*』（ロバーツ＆ドナルドソン訳）では、「神の国」という表現が14回使用されている。

2世紀において、真のキリスト教徒はもとより、単にキリストを公言する多くの人々でさえ、神の国について何らかの知識を持っていた。

ローマ・カトリックおよび東方正教会の聖人イレーネウスでさえ、復活の後、キリスト教徒は神の国に入ることを理解していた。彼が西暦180年頃に記した次の言葉に注目してほしい：

> 「信仰を持つ者たちの状態はまさにそのようなものである。なぜなら、彼らの中には、洗礼において主から与えられた聖霊が絶えず宿っており、受け入れた者が真理と聖さと

義と忍耐をもって歩むならば、その聖霊は彼の中に留まるからである。この魂は、信じる者たちの中で復活を遂げる。すなわち、体は再び魂を受け入れ、聖霊の力によって、それとともによみがえらされ、神の国に入るのである。」（リヨンの聖イレネウス。アルメニア語からアーミテージ・ロビンソンが翻訳。『使徒的宣教の証明』第42章。サマセット州ウェルズ、1879年10月。『キリスト教知識振興協会』より刊行。ニューヨーク：マクミラン社、1920年）

アンティオキアのテオフィロスは次のように教えた。

私が言及しているのは、ただその御慈愛に過ぎない。もし私が彼を「王国」と呼ぶとしても、それはただその栄光に言及しているに過ぎない……なぜなら、もし神が最初から彼を不死の者として造られたならば、彼を神として造られたことになるからである。 ……したがって、神は彼を不死にも死すべき者にも造られたのではなく、前述したように、その両方の可能性を備えた者として造られたのである。そうすれば、もし彼が不死の事柄に心を向け、神の戒めを守り続けるならば、神からの報いとして不死を受け、神となるはずである。（テオフィロス、『オートリコスへの手紙』1:3、2:27）

3世紀初頭、ローマ・カトリックの聖人ヒッポリュトスは次のように記している。

そして、この世に滞在する間、天の王を知っていたあなたがたは、天の御国を受け継ぐであろう。また、あなたがた

は神の伴侶となり、キリストと共に相続人となり、もはや欲望や情欲の奴隷となることもなく、二度と病に蝕まれることもないであろう。　あなたがたは神となったからである。人間として耐えたあらゆる苦しみは、あなたがたが死すべき存在であったゆえに、神が与えられたものである。しかし、神が授けるにふさわしいものはすべて、あなたがたが　神格化され、不死へと生まれ変わったゆえに、神はあなたがたに授けると約束されたのである。（ヒッポリュトス『あらゆる異端の反駁』第10巻第30章）

人間の目標は、来るべき神の御国において（文字通りの神の子として、詩篇82:6参照）、神格化されることである。

来るべき神の王国は、初代カトリック教会の教えであった（ccog.orgで入手可能な無料電子書籍『初代カトリック教会の信仰：残存する一派に継続的な使徒的継承はあり得たか？』も参照のこと）。

2世紀および3世紀における問題

神の王国という教えが広く受け入れられていたにもかかわらず、2世紀には、マルキオンという名の、律法に反対する背教的な指導者が台頭した。マルキオンは、神の律法、安息日、そして文字通りの神の王国に反対する教えを説いた。彼はポリカープらによって非難されたものの、かなり長い間ローマ教会と接触しており、ローマ教会に対して多大な影響力を持っていたようである。

2世紀から3世紀にかけて、アレクサンドリア（エジプト）では寓意解釈派が勢力を拡大しつつあった。多くの寓意解釈派は、文字通り

の神の王国という教義に反対していた。そうした寓意解釈派の一部に関する以下の報告に注目してほしい。

> ディオニュシオスは、アレクサンドリアの貴族で裕福な異教徒の家庭に生まれ、その哲学の教育を受けた。彼は異教の学校を離れ、オリゲネスの弟子となり、後にアレクサンドリアの教理学校の責任者をオリゲネスから引き継いだ……
>
> クレメンス、オリゲネス、そしてグノーシス派は、その空想的かつ寓意的な解釈によって、聖なる啓示の教義を歪めていた……彼らは自ら「寓意主義者」という名称を名乗るようになった。ネポスは寓意主義者たちと公然と対立し、地上にキリストの統治が訪れると主張した……
>
> ディオニュシオスはネポスの追随者たちと論争し、彼の記述によれば……「神の王国において現在存在しているような状態」である。これは、現在の教会の状態において神の王国が存在するという最初の言及である……
>
> ネポスは、天の御国は寓話的なものではなく、復活と永遠の命における、文字通りの主の到来する御国であることを示し、彼らの誤りを糾弾した……
>
> このように、現状において神の国が到来するという考えは、西暦200年から250年にかけてエジプトのグノーシス主義的寓意解釈学派において構想され、提唱されたものであり、帝国の司教たちが王座の占有者と見なされるようになるより、実に一世紀も前のことである……

> クレメントは、神の国という概念を、神に対する真の精神的認識の状態として捉えた。オリゲネスは、それを聖書の文字通りの記述の中に隠された霊的な意味として提示した。 （ウォード、ヘンリー・ダナ。『王国の福音：この世のものではなく、この世にはなく、しかし天の国において到来する王国、死からの復活、そして万物の回復について』。クラクストン、レムセン＆ハフェルフィンガー刊、1870年、124-125ページ）

このように、ネポス司教が神の王国の福音を説いていた一方で、寓意的解釈論者たちは、それについて文字通りの解釈から外れた誤った理解を導き出そうとした。ヒエラポリスのアポリナリス司教もまた、ほぼ同時期に寓意的解釈論者たちの誤りを正そうとした。神の教会に真に属する者たちは、歴史を通じて、文字通りの神の王国の真理を擁護し続けてきた。

ハーバート・W・アームストロングは「神の国の福音」を説き、さらに

20世紀、神の教会（黙示録3:7-13）の現代フィラデルフィア時代の初代指導者であった故ハーバート・W・アームストロングは、次のように記している：

> 彼らがキリストの福音を*拒んだ*ため……、この世はその代わりに何か別のものを据えなければならなかった。彼らは*偽物を*でっち上げなければならなかったのだ！ そのため、私たちは、神の国が単なる美しい決まり文句――人間の心の中にある素敵な感情――として語られ、それを空虚で非現実的

な「無」にまで矮小化されているのを耳にしてきました！ また、他の人々は「教会」こそが神の国であると誤って解釈しています……キリストの600年前に生きた預言者ダニエルは、神の国が現実の王国――地上の実在する人々を統治する政府――であることを知っていました……

ここに……「神の王国とは何か」についての神の説明があります。「そして、これらの王たちの時代に……」――ここでの「十の足」　は、一部が鉄で、一部がもろい粘土でできているものです。この預言をダニエル書第7章、およびヨハネの黙示録第13章と第17章と結びつけることで、これは今まさに……皆さんの目の前で形成されつつある、新しい「欧州連合（EU）」を指しているのです！　黙示録17章12節は、それが（黙示録17章8節にあるように）かつてのローマ帝国を復活させる「十人の王、あるいは十の王国」の連合であることを明確にしています……

キリストが来られる時、彼は「王の王」として来られ、全地を治めることになります（黙示録19:11-16）。そして、ダニエルが語ったように、キリストの*王国――すなわち神の王国――は*、これらすべての世俗の王国を「滅ぼし尽くす」のです。　黙示録11章15節は、次のように述べています。「この世の王国は、私たちの主とそのキリストの王国*となった*。そして、主は世々限りなく統治される」！　これこそが「神の王国」である。それは現在の政府――そう、米国や英国といった国家でさえも――の終焉を意味する。それらはやがて、全地を治める「王の王」である主イエス・キリストの王国――すなわち政府――となるのである。これにより、「

神の王国」が文字通りの「政府」であるという事実が完全に明らかになる。　カルデア帝国が「王国」であったように――ローマ帝国が「王国」であったように――神の王国もまた政府なのです。それは、世界の諸国の「政府」を引き継ぐことになるのです。イエス・キリストは、王――支配者となるために生まれたのです！ …

1,900年以上前に、聖地の丘や谷、そしてエルサレムの街を歩かれたそのイエス・キリストが、再び来られます。彼は再び来るとおっしゃいました。十字架にかけられた後、神は三日三晩を経て彼を死からよみがえらせられました（マタイ12:40、使徒2:32、Ⅰコリント15:3-4）。　彼は神の御座――宇宙政府の本部――へと昇天されました（使徒1:9-11；ヘブル1:3；8:1；10:12；黙示録3:21）。

彼は、たとえ話に登場する「貴族」であり、神の御座――「遠い国」――へと赴き、すべての国々の「王の王」として戴冠した後、地上に戻って来られる方です（ルカ19:12-27）。

また、彼は「万物の回復の時」（使徒行伝3:19-21）が来るまで天におられます。*「回復」とは*、以前の状態、あるいは　な状態に戻すことを意味します。この場合、地上における神の統治の回復、ひいては世界平和とユートピア的な状況の回復を指します。

現在の世界の混乱、激化する戦争や争いは、世界的な大患難という頂点に達し、神が介入しなければ、人間の肉体の者は一人として生き残れないほどになる（マタイ24:22）。

そのまさに頂点において、遅れればこの惑星からすべての生命が吹き飛ばされてしまうという状況で、イエス・キリストは再臨される。この時、彼は神そのものとして来られる。彼は、宇宙を支配する創造主のすべての力と栄光を帯びて来られるのである。（マタイ24:30、25:31）彼は「王の王、主の主」（黙示録19:16）として来られ、世界超政府を樹立し、すべての国々を「鉄の杖」で治める（黙示録19:15、12:5）……

キリストは歓迎されないのか？

しかし、人類は喜びの声を上げ、熱狂的な恍惚と熱意をもってキリストを迎え入れるだろうか――伝統的なキリスト教の教会でさえもそうするだろうか？

そうはならない！　サタンの偽りの奉仕者たち（Ⅱコリント11:13-15）に欺かれたため、彼らはキリストこそが反キリストであると信じるようになるだろう。教会も諸国も、キリストの到来に怒りを抱く（黙示録11:15および11:18）し、軍隊は実際にキリストと戦い、彼を滅ぼそうとするだろう（黙示録17:14）！

諸国は、エルサレムを戦線とする（ゼカリヤ書 14:1-2）来るべき第三次世界大戦の決戦に巻き込まれ、その後、キリストが再臨される。キリストは超自然的な力によって、自分に敵対する「それらの国々」と「戦われる」（同節3）。そして、それらを完全に打ち破られる（黙示録 17:14）！「その日、彼の足はオリーブ山に立つ」とあり、そこはエルサ

> レムの東、ごく近い場所である（ゼカリヤ書　14:4）。（アームストロング H.W.『時代の謎』、1984年）

聖書は、イエスが再臨し、勝利を収めると宣言しているが、それでも再臨の際、多くの者が彼に敵対するだろう（黙示録19:19）。多くの人々は（聖書の預言に対する誤解に基づいて、また部分的には偽預言者や神秘主義者たちの影響もあって）、再臨するイエスが最後の反キリストであると主張するだろう！

以下もハーバート・アームストロングの言葉である：

> 真の宗教――聖霊によって授けられた神の愛に支えられた神の真理……神とイエス・キリストを知ること――真理を知ること――そして神の神聖な愛の温もりから生まれる、言葉に尽くせない喜び！……
>
> 神の真の教会の教えとは、単に聖書の「すべての言葉によって生きる」という教えに他なりません……
>
> 人々は「得る」という道から「与える」という道――すなわち神の愛の道――へと立ち返るでしょう。
>
> 今や、新しい文明が地球を包み込むだろう！（同上）

この「新しい文明」こそが神の王国である。その新しい文明が到来し、愛に基づいて築かれることを宣べ伝えることは、イエスとその弟子たちが教えた王国の真の福音の核心をなすものである。それは、私たち「継続する神の教会」が説いていることである。

ハーバート・アームストロングは、イエスが、人間社会は、たとえ従おうとしているつもりであっても、実際には「与える」という生き方、すなわち愛の道を拒絶してきたと教えていたことに気づきました。イエスが教えていたことの重要性を正しく理解している人は、ほとんどいないようです。

イエスによる救いは福音の一部である

ここまで読んだ方の中には、救いにおけるイエスの死の役割について疑問を抱いている方もいるでしょう。確かに、イエスの死は、新約聖書とハーバート・W・アームストロングの両方が記した福音の一部です。

新約聖書は、福音にはイエスによる救いが含まれていることを示しています：

> 16　わたしはキリストの福音を恥じません。それは、信じるすべての人、すなわち、まずユダヤ人、そしてギリシャ人にとっても、救いへの神の力だからです（ローマ人への手紙 1:16）。

> 4 それゆえ、散らされた人々は、至る所で御言葉を宣べ伝えた。5 そこで、フィリポはサマリアの町へ下り、彼らにキリストを宣べ伝えた。……12　しかし、フィリポが神の国とイエス・キリストの御名　について宣べ伝えるのを聞いて、彼らが信じたとき、男女を問わず、皆バプテスマを受けた。……25　こうして、彼らは主の御言葉を証しし、宣べ伝えた後、サマリア人の多くの村々で福音を宣べ伝えながら、エルサレムに戻った。26　さて、主の御使いがフィリポに語りかけ

た……[40] フィリポはアゾトスにいた。そして、そこを通過しながら、カイサリアに着くまで、すべての町で福音を宣べ伝えた。(使徒行伝 8:4,5,12,25,26,40)

[18] 彼は彼らにイエスと復活について宣べ伝えた。（使徒行伝 17:18）

[30] そこで、パウロは借りた家に丸二年住み、訪ねて来る者すべてを受け入れ、[31] **神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストに関する事柄を**、誰にも妨げられることなく、大胆に**教えて**いた。（使徒行伝 28:30-31）

この宣教には、イエスと御国の両方が含まれていたことに注目してください。悲しいことに、神の御国の福音に対する正しい理解は、ギリシャ・ローマ系の教会の教えからは欠けている傾向があります。

実際、私たちがその御国の一員となるために、神は人間を深く愛し、私たちのためにイエスを遣わして死なせてくださった（ヨハネ3:16-17）だけでなく、御恵みによって私たちを救ってくださる（エペソ2:8）。そして、それこそが「良き知らせ」の一部なのである（使徒20:24）。

「神の国の福音」こそが世界が必要としているものですが、しかし……

平和のために働くこと（マタイ5:9）や善を行うことは、価値ある目標です（ガラテヤ6:10参照）。しかし、宗教指導者を含む多くの世界の指導者たちは、平和と繁栄をもたらすのは神の国ではなく、国際的な人間の協力であると考えています。彼らは一時的な成功

を収めることもあるでしょうが、最終的に成功することはないばかりか、その人間による努力の一部は、もしイエスが御国を確立するために再臨されなければ、地球を生命の維持が不可能な状態に追い込んでしまうでしょう（マタイによる福音書 24:21-22）。神抜きで人間が地球を修復しようとするのは、虚しく、偽りの福音です（詩篇 127:1）。

世の中には、21世紀に新世界秩序を打ち立てるために、半宗教的なバビロニア的な国際計画を練ろうとしている人々が大勢います。これは、「*継続*する神の教会」が設立当初から非難してきたことであり、今後も非難し続けるつもりです。　約6000年前、サタンがエバを惑わして、彼自身の「福音」の一種に堕落させた（創世記3章）以来、多くの　人間は、自分たちや世界をより良くするために何が必要かについて、神よりも自分たちの方がよく知っていると信じてきました。

聖書によれば、ヨーロッパの軍事指導者（「北の王」と呼ばれ、また『ヨハネの黙示録』13章1〜10節の「獣」とも呼ばれる）と、七つの丘の都　（黙示録17:9,18）から現れる宗教的指導者（「偽預言者」と呼ばれ、「最後の反キリスト」や黙示録13章11節から17節に登場する「二本の角を持つ獣」とも呼ばれる）との連携によって、「バビロニア的」（黙示録17章および18章）な世界秩序がもたらされる。人類にはキリストの再臨と御国の確立が必要であるが、21世紀の世界の多くの人々は、このメッセージに耳を傾けることはないだろう——彼らは、サタンの偽りの福音の様々な形態を信じ続けるだろう。しかし、世界は一つの証しを受けることになる。

イエスがこう教えられたことを思い出してください。

14 この御国の福音が、すべての国々への証しとして全世界に宣べ伝えられる。そうして、終わりが来る。（マタイによる福音書 24:14）

「御国の福音」が証しとして世界に広まり、それから終わりが来ることに注目してください。その「終わり」とは、「大患難」の始まりのことです。

これにはいくつかの理由があります。

一つは、神が「大患難」（マタイ24:21でその始まりが示されている）が始まる前に、世の人々に真の福音を聞かせたいと望んでおられるからです。　したがって、福音のメッセージは証しであり、警告でもあります（エゼキエル書3章、アモス書3:7参照）。その結果、イエスが再臨される前に、より多くの異邦人が回心し（ローマ人への手紙11:25）、また異邦人以外の者たちも回心することになります（ローマ人への手紙9:27）。

もう一つの理由は、そのメッセージの要点が、台頭しつつある「北の王」である獣の勢力、および偽預言者、すなわち最後の反キリストの見解と対立するものであるからです。この二者は基本的に、人間の努力と宗教的な妥協を通じて平和を約束しますが、それは終末（マタイ24:14-22）と破滅（参照：テサロニケ人への手紙第一5:3）へとつながります。

聖書は、本来の真の信仰のために戦うこと（ユダの手紙 3）、神の言葉こそが真理であること（ヨハネによる福音書　17:17）、そして真のクリスチャンは異教と妥協する者たちから　分離すべきであると述べているにもかかわらず、多くの人々は、平和と一致を実現す

るためには妥協を伴う「福音」（良き知らせ）が必要だと主張するでしょう。　悲しいことに、神の御国の真の福音は、獣と偽預言者（最後反キリスト）のエキュメニカルおよび異宗教間協力の計画を推進する多くの人々によって、偽りの福音と見なされることになるでしょう。

彼らに伴うしるしや偽りの奇跡（テサロニケの信徒への手紙第二 2:9）のため、世の大半の人々は、福音のメッセージではなく、偽りを信じることを選ぶでしょう（テサロニケの信徒への手紙第二 2:9-12）。 ローマ・カトリック、東方正教会、ルーテル派などによる神の千年王国への不当な非難のため、多くの人々は、神の王国の千年福音のメッセージこそが、獣や反キリストに関連する偽りの福音であると誤って主張することになるでしょう。

大患難が始まる前に、忠実なフィラデルフィアのクリスチャンたち（黙示録 3:7-13）は、世界中を巡り（マタイ 24:14）、千年王国の福音を宣べ伝え、特定の世俗的な指導者たち（獣や偽預言者を含む）が何を企んでいるかを世界に告げ知らせることになるでしょう。

彼らは、北の王である「獣」が、最後の反キリストである「偽預言者」と共に、（一部の同盟国を含め）米国や、英国、カナダ、オーストラリア、 およびニュージーランド（ダニエル書 11:24,39）を（一部の同盟国と共に）最終的に滅ぼし、その直後にアラブ／イスラム連合を滅ぼし（ダニエル書 11:40-43）、悪魔の道具として機能し（黙示録 16:13-14）、最終的にはイエス・キリストの再臨の際に彼と戦うことになる（黙示録 16:14; 19:19-20）というメッセージを世界に伝えることを支援するでしょう。　忠実なフィラデルフィアの

信徒たち（黙示録 3:7-13）は、神の千年王国がまもなく到来することを告げ知らせるでしょう。

これはおそらくメディアで大きく取り上げられ、マタイによる福音書24章14節の成就に寄与することになるでしょう。私たち「継続する神の教会」は、（多言語の）文献を準備し、ウェブサイトを充実させ、その他の措置を講じて、「短い働き」（ローマ人への手紙9章28節参照）に備えています。この働きは、来るべき終わりの証しとして、マタイによる福音書24章14節が十分に果たされたという神の御定めに至る一助となるでしょう。

世界的な指導者たち（おそらく、ある種の「新しい」タイプの欧州の最高指導者と、ある種のカトリックを*標榜する*妥協的な教皇）を宣べ伝える「偽りの福音」は、そのような宣教を快くは思わないでしょう。彼らは、自分たちが実際に何をするのかを世界に知られたくないのです（そして、当初は自分たち自身でさえそれを信じていないかもしれません。イザヤ書10章5-7節参照）。 彼らおよび／またはその支持者たちはまた、忠実なフィラデルフィアのクリスチャンたちが、来るべき反キリストに関する過激な教義（千年王国説）を唱えていると、誤って教える可能性が高い。彼らおよび／またはその信奉者たちが、フィラデルフィアの忠実な信徒たちや「継続する神の教会」に対してどのような非難を投げかけようとも、それが迫害を引き起こすことになる（ダニエル書11:29-35；黙示録12:13-15）。 これはまた、終末――大患難の始まり（マタイ24:21；ダニエル11:39；参照：マタイ24:14-15；ダニエル11:31）――へとつながるだけでなく、忠実なフィラデルフィアのクリスチャンたちにとっての3年半にわたる保護の期間（黙示録3:10；12:14-16）をもたらすことになる。

獣と偽預言者は、支配権を握るために、武力、経済的脅迫、しるし、偽りの奇跡、殺人、その他の圧力を用いてくるでしょう（黙示録13:10-17；16:14；ダニエル書7:25；テサロニケの信徒への手紙第二2:9-10）。クリスチャンたちはこう問うでしょう：

> 10 「聖なる、真実なる主よ、あなたが地に住む者たちを裁き、私たちの血の復讐をなさるまで、あとどれほど続くのでしょうか。」（黙示録 6:10）

古来より、神の民は「イエスが再臨されるまで、あとどれくらいかかるのでしょうか」と疑問を抱き、問い続けてきました。

その日や時刻は分かりませんが、多くの聖書の箇所（例：マタイ24:4-34；詩篇90:4；ホセア6:2；ルカ21:7-36；ヘブライ1:1-2；4:4,11；ペテロの手紙第二 3:3-8；テサロニケ人への手紙第一 5:4）に基づき、21世紀にイエスが再臨し（そして千年の神の王国が確立される）と期待しています。その聖書箇所の一部は、すでに成就しつつあるのが見て取れます。

もしイエスが介入しなければ、人類はすべての生命を滅ぼしてしまうでしょう：

> 21 そのとき、世の初めから今まで、また今後とも決してないような大患難が起こるであろう。22 もしあの日が短縮されなければ、いかなる肉なる者も救われないであろう。しかし、選ばれた者たちのために、あの日は短縮されるのである。（マタイによる福音書 24:21-22）

29　あの日の苦難の直後に、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の力は揺さぶられる。30　そのとき、人の子のしるしが天に現れ、地のすべての部族は嘆き悲しみ、彼らは、人の子が力と大きな栄光を帯びて、天の雲に乗って来られるのを見る。 31　そして、主はラッパの大いなる音とともに御使いたちを遣わし、彼らは四方の風から、天の一端からもう一端まで、主の選ばれた者たちを集める。（マタイによる福音書 24:29-31）

神の国こそ、この世界が必要としているものです。

御国の使節たち

神の御国において、あなたの役割は何でしょうか。

今この瞬間、あなたが真のクリスチャンであるなら、イエスと神の御国の大使となるべきです。使徒パウロが書いたことに注目してください：

20　ですから、私たちはキリストの使節です。まるで神が私たちを通して懇願しておられるかのようです。私たちはキリストに代わって、あなたがたに懇願します。神と和解してください。（コリントの信徒への手紙二 5:20）

14　それゆえ、真理をもって腰に帯を締め、義の胸当てを身に着け、15　平和の福音という備えを足に履き、16　何よりもまず、信仰の盾を取りなさい。それによって、悪者の放つあらゆる燃えるような矢を消し去ることができるのです。17　また、救いの兜と、御霊の剣、すなわち神の御言葉とを手

に取りなさい。[18]　御霊によって、あらゆる祈りと願いをもって絶えず祈り、この目的のために、すべての聖徒のために、あらゆる忍耐と願いをもって目を覚ましていなさい――[19]　また、私のためにも、口を開いて大胆に福音の奥義を明らかにできるよう、語ることが与えられるように祈ってください。[20]　私はその福音の使として鎖につながれているのです。その福音について、私が語るべきように大胆に語ることができるように。（エペソ人への手紙 6:14-20）

「大使」とは何でしょうか。*メリアム・ウェブスター辞典には*次のような定義があります：

> **1:**　公式の使節。*特に*、自国政府または君主の常駐代表として、あるいは特別かつ多くの場合一時的な外交任務のために任命され、外国政府または君主に公認された最高位の外交官
>
> **2 *a*:** 権限を与えられた代表者または使者

もしあなたが真のクリスチャンであるなら、あなたはキリストのための公式の使節なのです！使徒ペテロが次のように記していることに注目してください：

> [9] しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王の祭司、聖なる国民、神の所有となった民です。それは、あなたがたを暗やみから、神の驚くべき光の中へと招いてくださった方の栄光を宣べ伝えるためです。[10]　かつては民ではなかったが、今は神の民となり、かつては憐れみを受けなかったが、今は憐れみを受けた者たちです。（ペテロの手紙一 2:9-10）

クリスチャンとして、私たちは聖なる国民の一員となるべきです。

では、今、どの国が聖なるのでしょうか？

もちろん、この世のどの王国でもありません――しかし、それらは最終的にはキリストの王国の一部となるでしょう（黙示録 11:15）。聖なるのは、神の国、すなわち神の王国なのです。

大使として、私たちは通常、この世の諸国の直接的な政治には関与しません。しかし、私たちは今、神の生き方を実践すべきです（www.ccog.org で入手可能な無料電子書籍『*クリスチャン：神の御国の大使――クリスチャンとしての生き方に関する聖書の教え*』も参照してください）。　今、神の生き方を実践することで、私たちはなぜ神の道が最善であるかをより深く学び、その御国において王や祭司となり、地上でキリストと共に統治することができるようになるのです：

> 5 私たちを愛し、ご自身の血によって私たちの罪を洗い清めてくださった方、6 私たちを、御自身の神であり父である方のために、王とし、祭司としてくださった方に、栄光と支配が、世々限りなくありますように。アーメン。（黙示録 1:5-6）

> 10　私たちを私たちの神の御前に王とし、祭司としてくださった方。私たちは地上で支配するのです。（黙示録 5:10）

王や祭司となることの一つの将来的な側面は、その時にまだ死すべき者である人々に、神の道に従って歩むよう教えることである：

19　民はエルサレムのシオンに住む。あなたはもはや泣くことはない。あなたが叫ぶ声を聞くと、主はあなたに大いなる恵みを施される。主はそれを聞かれると、あなたに答えてくださる。20　主があなたに苦難のパンと患難の水を授けられるとしても、あなたの教師たちはもはや隅に追いやられることはない。あなたの目は、あなたの教師たちを見るであろう。 21 あなたが右に曲がろうとも、左に曲がろうとも、あなたの背後から、「これが道である。これに従え」という声が聞こえるであろう。（イザヤ書 30:19-21）

これは千年王国のための預言ですが、この時代においても、クリスチャンは教える準備をしておく必要があります：

12　… あなたがたは、とっくに教師となっているはずである。（ヘブライ人への手紙 5:12）

15　しかし、あなたがたの心の中で主なる神を聖別し、あなたがたの内に宿る希望について、尋ねてくるすべての人に、柔和と畏れをもって、いつでも答えられるように備えていなさい。（ペテロの手紙第一 3:15、KJV）

聖書は、大患難が始まる直前に、より忠実なクリスチャンの多くが、多くの人々を教え導くことを示しています：

33　民のうち、悟りある者たちは、多くの人々を教え導くであろう。（ダニエル書 11:33）

ですから、恵みと知識において学び、成長すること（ペテロの手紙第二 3:18）は、私たちが今行うべきことです。イエスは、「あなた

がたは、エルサレムで、またユダヤ全土とサマリアで、そして地の果てまで、わたしの証人となるであろう」（使徒行伝　1:8）と言われました。神の御国におけるあなたの役割の一部は、教えることができるようになることです。

そして、より忠実なフィラデルフィアのクリスチャンたち（黙示録 3:7-13）にとっては、これには、神の千年王国の始まりに先立って行われる重要な福音の証しを支えることも含まれます（参照　マタイ 24:14）。

神の御国が確立された後、神の民は、傷ついた地球を回復させるために用いられることになる：

> 12　あなたがたのうちの者たちは、古く荒れ果てた場所を再建し、
> あなたがたは、多くの世代にわたる土台を築き上げ、『破れ口を修復する者』、『人が住むための道を回復する者』と呼ばれる。（イザヤ書 58:12）

このように、この時代に神の道に従って生きた神の民は、千年王国のこの回復の時期に、人々が都市（およびその他の場所）に住みやすくなるよう道を開くことになるのです。

世界は真に、より良い場所となるでしょう。私たちは今、キリストの使節となるべきであり、そうして初めて、御国においても仕えることができるのです。

真の福音のメッセージは人を変える

イエスはこう言われました。「もしあなたがたがわたしの言葉にとどまるなら、あなたがたはまことにわたしの弟子です。32　そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にするでしょう」（ヨハネ8:31-32）。神の御国の福音に関する真理を知ることは、私たちをこの世の偽りの希望に囚われることから解放してくれます。 私たちは、確実に機能する計画――すなわち神の計画――を大胆に支持することができます！サタンは全世界を惑わしています（黙示録12:9）が、神の御国こそが真の解決策です。私たちは真理のために立ち上がり、それを擁護しなければなりません（参照：ヨハネ18:37）。

福音のメッセージは、単なる個人の救いにとどまりません。神の御国に関する良き知らせは、この時代に生きる人々を変革すべきものです：

> 2 この世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにすることによって、自らを変えさせ、神の御心、すなわち、何が善であり、神に喜ばれ、完全であるかを、見分けることができるようにしなさい。（ローマ人への手紙 12:2）

真のクリスチャンは、神と他者に仕えるために変えられていくのです：

> 22　しもべたちよ、肉による主人に、あらゆる事において従いなさい。人に見せるため、人に気に入られようとしてではなく、心を尽くして、神を畏れて従いなさい。23　何をするにせよ、人に対してではなく、主に対してするように、心を尽くして行いなさい。24　あなたがたは、主から、 相続

の報いを受けることを知っているからです。あなたがたは、主キリストに仕えているのです。　（コロサイ人への手紙 3:22-24）

28　ですから、私たちは揺るがされることのない御国を受け継ぐ者として、恵みによって、畏敬の念と神への畏れをもって、神に喜ばれるように仕えましょう。（ヘブライ人への手紙 12:28）

真のクリスチャンは、世とは異なる生き方をします。私たちは、善悪について、世の基準よりも神の基準を受け入れます。義人は信仰によって生きるのです（ヘブル人への手紙　10:38）。この時代に神の道に従って生きるには、信仰が必要だからです。　クリスチャンは、自分たちが暮らす世とはあまりにも異なっていると見なされていたため、新約聖書では彼らの生き方は「道」と呼ばれていました（使徒行伝 9:2; 19:9; 24:14,22）。世の人々は、サタンの支配下にあり、欺かれて利己的に生きており、それは「カインの道」と呼ばれています（ユダの手紙 11）。

神の国の福音は、義と喜びと平和のメッセージです（ローマ14:17）。預言の言葉は、正しく理解されれば慰めとなります（参照：1コリント14:3；1テサロニケ4:18）。特に、この世が崩れ去っていくのを目の当たりにする今、その慰めは一層大きな意味を持ちます（参照：ルカ21:8-36）。　真のクリスチャンの生き方は、霊的な豊かさと物質的な祝福へと導きます（マルコ10:29-30）。これこそが、その生き方を実践する者たちが、この世に神の国が必要であることを理解している理由の一部です。クリスチャンは神の国の大使なのです。

クリスチャンは、たとえこの物質的な世界に生きていようとも、物質的なものではなく、霊的なものに希望を置きます（ローマ8:5-8）。私たちには「福音の希望」があります（コロサイ1:23）。これは、初期のクリスチャンたちが理解していたことですが、今日イエスを信じることを公言する多くの人々は、それを真に理解していません。

6. ギリシャ・ローマ系の教会は、神の国が重要であると教えているが……

ギリシャ・ローマ系の教会は、自分たちが神の国の側面を教えていると信じているが、それが実際に何であるかを真に理解することには苦労している。例えば、*『カトリック百科事典』は*、神の国について次のように教えている：

> キリストの……その教えのあらゆる段階において、この王国の到来、その様々な側面、その正確な意味、そしてそれがどのようにして達成されるべきか、これらがその説教の主軸をなしており、その説教は「王国の福音」と呼ばれるほどである……彼らは教会を「神の国」と呼び始めた；参照：コロサイ人への手紙 1章13節、テサロニケ人への手紙第一 2章12節、黙示録 1章6節、9節、5章10節など……それは、神聖な制度としての教会を意味する……（教皇H. 『神の国』。『カトリック百科事典』第8巻。1910年）

上記では「コロサイ人への手紙 1章13節、テサロニケ人への第一の手紙 2章12節、ヨハネの黙示録 1章6節・9節、5章10節」が挙げられているが、実際にそれらを調べてみると、これらの聖句のどれ一つとして、***教会が***「神の国」であるとは述べていないことが分かる。それらは、信者たちが神の国の一部となること、あるいはそれがイエスの国であることを教えているのである。　聖書は、多くの人が福音を改変したり、別の、偽りの福音に転じたりすると警告している（ガラテヤ人への手紙　1:3-9）。悲しいことに、実際にそうした人々が現れている。

イエスはこう教えられました。「わたしは道であり、真理であり、いのちである。　わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことはできない」（ヨハネ14:6）。ペテロは、「他のだれにも救いはありません。天の下で、　人間に与えられた名の中で、私たちが救われるべき名として与えられたのは、この名だけだからです」（使徒4:12）と教えました。ペテロはユダヤ人たちに、救われるためには、悔い改め、イエスを受け入れる信仰を持たなければならないと告げました（使徒2:38）。

これとは対照的に、故フランシスコ教皇は、イエスを信じない無神論者であっても、善行によって救われることができると教えてきました！また、ユダヤ人はイエスを受け入れなくても救われることができるとも教えています！さらに、彼や一部のギリシャ・ローマ系の人々は、聖書に基づかない「マリア」像が、福音の鍵であるだけでなく、エキュメニカルな一致や異宗教間の調和の鍵でもあると考えているようです。　悲しいことに、彼らやその他の人々は、イエスの重要性も、神の御国の真の福音も理解していません。多くの人が偽りの福音を広めています。

多くの人が、目に見えるものに従って歩み、この世を信じようとしています。新約聖書は、クリスチャンは上を見上げるべきであると教えています：

> 2 地上の事ではなく、天上の事に心を留めなさい。（コロサイ人への手紙 3:2）

> 7 私たちは、見えるものによってではなく、信仰によって歩んでいるのです。（コリントの信徒への手紙二 5:7）

それにもかかわらず、教皇ピウス11世は、基本的に、自身の教会という「目に見えるもの」に従って歩むよう教えました：

> …カトリック教会…こそが、地上のキリストの王国である。（ピウス11世の回勅『*Quas Primas*』）

ウェブサイト「*CatholicBible101*」は、「神の王国は、西暦33年にイエス・キリストによって、ペテロが率いる彼の教会……すなわちカトリック教会という形で、地上に確立された」と主張している。しかし、千年続く神の王国はここにはなく、ローマ教会でもありません。それが到来するとき、それは地上に現れるでしょう。真の神の教会は「御国の鍵」を持っていますが（マタイ16:19）、ある教会が神の王国であると主張する者たちは、「知識の鍵を取り去ってしまった」のです（ルカ11:52）。

ローマ教会は、間もなく到来する地上の千年神の王国に対してこれほど強く反対を説いているため、*カトリック教会の公式『カテキズム』*に列挙されている「反キリストの教義」は、基本的にこれ一つだけである：

> **676** 反キリストの欺瞞は、終末論的な審判を通じてのみ歴史の彼方で実現し得るメシアニックな希望を、歴史の枠内で実現すると主張されるたびに、すでにこの世で形を成し始めている。教会は、千年王国主義という名の下に行われる、来るべき御国に関するこの虚偽の教えを、たとえそれが修正された形態であっても拒絶してきた……（『カトリック教会のカテキズム』。Imprimatur Potest +Joseph Cardinal

Ratzinger. ダブルデイ社、ニューヨーク、1995年、194ページ）

悲しいことに、この立場に同意する人々は、最終的には神の国の福音を宣べ伝えることに関して大きな問題に直面することになるだろう。中には、それを宣べ伝える者たちに対して恐ろしい手段を講じる者も現れるだろう（ダニエル書 7:25；11:30-36）。しかし、あなたはこう考えるかもしれない。「イエスを主と告白する者は皆、神の国に入るのではないのか？」 いいえ、そうではない。イエスがこう言われたことに注目してほしい：

> 21 「わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者すべてが天の御国に入るわけではない。天におられるわたしの父の御心を行う者だけが、そこに入るのだ。22 その日、多くの人がわたしにこう言うだろう。『主よ、主よ、私たちはあなたの御名によって預言し、あなたの御名によって悪霊を追い出し、あなたの御名によって多くの奇跡を行ったではありませんか？』 23 その時、わたしは彼らにこう言い渡す。『わたしはあなたがたを一度も知らなかった。不法を行う者たちよ、わたしから離れ去れ！』 （マタイによる福音書 7:21-23）

使徒パウロは、彼の時代において「不法の秘密」が「すでに働いている」（テサロニケの信徒への手紙第二 2:7）と指摘しました。この不法は、聖書が終わりの時に警告している「大いなるバビロンの秘密」（黙示録 17:3-5）とも関連しています。

「不法の秘密」とは、神の十戒などの律法を守るために努力する必要はない、あるいはそれには容認できる例外が数多くある、あるいは神の律法を破っても許される償いの形がある、などと信じている、名ばかりのクリスチャンたちに関連しています。彼らは神の律法の一形態を持っていると考えていますが、実際には、イエスやその使徒たちが正当と認めるようなキリスト教の在り方を実践しているわけではありません。

キリスト教徒を名乗る多くの人々は、神の戒めに背きながらも、自分たちの伝統によってそれが許されると主張したパリサイ人たちのようである――イエスはそのような態度を非難された（マタイ15:3-9）！イザヤもまた、神の民を名乗る者たちが神の律法に反逆すると警告している（イザヤ30:9）。悲しいことに、この不法な反逆は今日に至るまで見られるものである。

もう一つの「謎」は、ローマ教会が、その軍国主義的なエキュメニカル運動や異宗教間対話の計画が、平和と、聖書に基づかない「地上の神の王国」をもたらすと信じているように見えることです。聖書は、今後訪れるエキュメニカルな統一に対して警告しており、それについては、数年間は成功するだろうと教えているのです（注：ローマ・カトリック教会が承認した翻訳である『*ニュー・エルサレム聖書*』が示されています）：

> 4 彼らは、竜が獣に権威を与えたため、竜の前にひれ伏した。また、獣の前にもひれ伏して、「獣に匹敵する者は誰か。 誰がそれに立ち向かえるだろうか？」 5 獣は、42か月間、自慢や冒涜を口にし、活動することを許された。6 そして、神と、神の御名と、天の幕屋、そしてそこに宿るすべて

の人々に対して、冒涜を口にした。[7] また、聖徒たちと戦って彼らに打ち勝つことを許され、あらゆる種族、民族、言語、国民に対する権威を与えられた。[8] そして、世のすべての人が、すなわち、世の創世以来、犠牲の小羊の命の書にその名が記されていないすべての人が、それを礼拝するようになる。[9] 聞く耳のある者は、聞きなさい。[10] 捕らわれの身となるべき者は捕らわれの身となり、剣によって死ぬべき者は剣によって死ぬ。それゆえ、聖徒たちは忍耐と信仰を持たなければならない。（黙示録 13:4-10、NJB）

聖書は、終わりの時のバビロンの統一に対して警告しています：

[1] 七つの鉢を持つ七人の天使の一人が、私に語りかけるためにやって来て、こう言った。「ここに来なさい。豊かな水のほとりに座している大いなる娼婦への懲罰を、あなたに見せてあげよう。[2] 地のすべての王たちは彼女と淫行を犯し、彼女は自分の姦淫のぶどう酒で、全世界の人々を酔わせたのである。」[3] 彼は霊によって私を荒野へと連れて行き、そこで私は、七つの頭と十本の角を持ち、その全身に冒涜的な名が書き記された緋色の獣に乗っている女を見た。[4] その女は紫と緋色の衣をまとい、金や宝石、真珠で身を飾り立て、彼女の淫行による忌まわしい汚れで満たされた金の酒杯を手にしていた。[5] **彼女の額には、謎めいた名が記されていた。「大バビロン、地上のすべての娼婦とあらゆる不潔な行いの母**」。[6] 私は、彼女が聖徒たちの血と、イエスの殉教者たちの血に酔いしれているのを見た。そして彼女を見たとき、私は全く理解に苦しんだ。（黙示録 17:1-6、NJB）

9 「ここには知恵が必要だ。**七つの頭は**、その女が座している**七つの丘**である……18 あなたが見たその女は、地上のすべての支配者たちを支配する**大いなる都である**。」（黙示録17:9,18, NJB）

1 その後、私は、大きな権威を与えられた別の天使が天から降りてくるのを見た。その栄光によって、地は輝いた。2 彼は声を張り上げて叫んだ。「バビロンは倒れた。**大いなるバビロン**は倒れ、悪魔たちの巣窟となり、あらゆる汚れた霊や、不潔で忌まわしい鳥たちの住処となった。3 すべての国々は、彼女の淫行のぶどう酒を深く飲み干した。地上のすべての王は彼女と淫行を犯し、すべての商人は彼女の放蕩によって富を蓄えた。」4 天から別の声が聞こえた。「**わが民よ、彼女から出て行け。そうすれば、彼女の罪に加担することもなく、同じ災いに遭うこともない**。」5 彼女の罪は天にまで達しており、神は彼女の悪行を心に留めておられる。彼女が他者にしたように、彼女にも報いよ。6 彼女は、自分が搾り取った額の二倍を支払わなければならない。彼女は、自ら調合した杯を、二倍の強さで飲まされることになる。7 彼女のあらゆる華やかさや乱交には、それに見合う拷問や苦痛が伴うことになる。 「私は女王として玉座に就いている」と彼女は思っている。「私は未亡人ではなく、死別など決して経験しない。」(8) それゆえ、たった一日のうちに、疫病と嘆きと飢饉という災いが彼女に降りかかる。彼女は焼き尽くされる。 彼女を裁かれた主なる神は力強い。」9 「彼女と淫行をなし、彼女と共に乱交を繰り広げた

地上の王たちは、彼女のために嘆き悲しむだろう。彼らは、彼女が燃え上がる煙を見る。（黙示録 18:1-9、NJB）

ゼカリヤ書において、聖書は来るべきバビロンに対して警告し、イエスが再臨する*までは*真の団結は実現しないことを示している：

10 気をつけよ！ 気をつけよ！ 北の地から逃げよ――主はこう言われる――わたしはあなたがたを天の四方の風に散らしたからだ―― 主はこう言われる。11 気をつけよ！ **バビロンの娘と共に住んでいるシオンよ、今こそ**逃げよ**！**

12 万軍の主はこう言われる。栄光がわたしに命じられたのだ。

『あなたを略奪した諸国について、わたしに命じられた。あなたに触れる者は、わたしの目の瞳に触れるのだ。13 見よ、わたしは彼らの上に手を振るう。そうすれば、彼らは自分たちが奴隷にした者たちによって略奪される。』 そうすれば、あなたがたは、万軍の主がわたしを遣わされたことを知るだろう。14 歌え、喜びなさい、シオンの娘よ。今、わたしはあなたがたの間に住むために来る――主はこう言われる。15 その日、多くの国々が主のもとへ回心する。そう、彼らは主の民となり、あなたがたの間に住むようになる。 そうすれば、あなたがたは、万軍の主がわたしをあなたがたのところへ遣わされたことを知るだろう！16 主は、聖地におけるご自身の分であるユダを所有し、再びエルサレムを御自身の選びの地とされる。（ゼカリヤ書 2:10-16、NJB；

注：KJV/NKJV版では、これらの節はゼカリヤ書 2:6-12として記載されている）

特定の事柄における協力は良いことかもしれませんが、国連、バチカン、多くのプロテスタント、および東方正教会の指導者たちが推進しているエキュメニカル運動や異宗教間対話運動の側面は、聖書によって明確に非難されており、奨励されるべきではありません。イエスは、御自分に従うと*称しながら*「多くの人を惑わす」者たちについて警告されました（マタイ24:4-5）。エキュメニズムの多くは、黙示録6:1-2の最初の封印の開封、すなわち黙示録の「白い馬に乗る者」（これはイエスではありません）や、黙示録17章の「大淫婦」に関連しています。

ゼカリヤと同様に、使徒パウロもまた、イエスが再臨される*までは*真の信仰の一致は実現しないと教えました：

> 13　私たち全員が、信仰と神の御子に関する知識において一致に達し、キリストご自身の満ち満ちた豊かさに至って、完全に成熟した「完全な人」となるまで。（エフェソの信徒への手紙 4:13、NJB）

この一致がイエスの再臨に先立つと信じている人々は誤っている。実際、イエスが再臨される際、御自身に敵対して結集する諸国の結束を打ち砕かなければならないのである。

> 11:15 すると、第七の天使がラッパを吹き鳴らした。すると、天から叫ぶ声が聞こえ、「この世の王国は、私たちの主とそのキリストの王国となった。主は、世々限りなく統治される」と叫んだ。 16　神の御前に玉座に着いている二十四人

の長老たちは、ひれ伏して額を地に付け、神を礼拝した。(17) そしてこう言った。「全能の主なる神、今おられる方、かつておられた方よ、あなたがその大いなる力を取り、御支配を始められたことを、私たちはあなたに感謝します。」 18 諸国は騒然としていたが、今や、あなたの報復の時が来た。また、死者が裁かれ、あなたのしもべである預言者たち、聖徒たち、そしてあなたの御名を畏れる者たち——大小を問わず——が報いを受ける時が来た。地を滅ぼしている者たちを滅ぼす時が来たのである。」（黙示録 11:15-18、NJB）

19:6 すると、私は、まるで海の音や大いなる雷鳴のような、大群衆の声と思われるものが、「ハレルヤ！ 全能の神、私たちの主の支配が始まった。……19 すると、私は、獣が、地上のすべての王たちとその軍勢を率いて、騎手とその軍勢と戦うために集まっているのを見た。 20 しかし、その獣は、獣のために奇跡を行い、それによって獣の印を受け入れた者たちや、その像を礼拝した者たちを欺いた偽預言者とともに、捕らえられた。 この二人は、生きたまま、燃える硫黄の火の池に投げ込まれた。21 残りの者たちは皆、騎士の口から出た剣によって殺され、すべての鳥たちは彼らの肉を食い尽くした……。20:4 それから、私は玉座が見え、彼らがそこに座り、裁きを行う権威が彼らに与えられていた。 私は、イエスのために証しをし、神の御言葉を宣べ伝えたために首を切られたすべての者の魂と、また、獣やその像を礼拝することを拒み、額や手に印を受けることを拒んだ者たちを見た。彼らは生き返り、キリストと共に千年間統治した。（黙示録 19:6,19-21; 20:4, NJB）

イエスは、御自身に敵対して結集した世界の軍勢を滅ぼさなければならないことに留意されたい。その後、イエスと最初の復活の聖徒たちが支配する。その時こそ、　真の信仰の一致が実現するのだ。悲しいことに、使徒パウロが警告したように（コリントの信徒への手紙二 11:14-15）、多くの人が、一見善良に見えるが実際にはそうではない偽りの牧師たちの言葉に耳を傾けてしまうでしょう。もし、より多くの人々が聖書と神の国の福音を真に理解していれば、イエスの再臨の際にイエスに敵対する人々は少なくなっていたはずです。

7. なぜ神の国なのか？

人間は自分たちがとても賢いと思い込みがちですが、私たちの理解には限界があります。しかし、神の「知恵は限りない」のです（詩篇147:5）。

だからこそ、この地球を正すには神の介入が必要となるのです。

多くの人々が神を信じているものの、人類の大多数は、神の御言葉に従い、*神が*真に導かれる通りに生きることを望んでいません。次の御言葉に注目してください。

> 8 「人よ、主はあなたに何が良いかを示された。主があなたに求めておられるのは、ただ、正義を行い、慈しみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか。」（ミカ書 6:8）

神と共にへりくだって歩むことは、人類が真に望んできたことではありません。アダムとエバの時代（創世記　3:1-6）以来、人間は神の戒め（出エジプト記　20:3-17）にもかかわらず、神よりも自分自身や自分の優先事項に頼ることを選んできました。

『箴言』は次のように教えています。

> 5 心を尽くして主に信頼し、自分の理解に頼ってはならない。6 あなたのすべての道において主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道を導いてくださる。7 自分の目には賢いと思ってはならない。主を恐れ、悪から離れよ。（箴言 3:5-7）

しかし、ほとんどの人々は、心から神を真に信頼することも、神が自分の歩みを導いてくださるのを待つこともありません。多くの人は、神の御心に従うと口では言いながらも、実際には　そうはしません。人類はサタンに欺かれ（黙示録 12:9）、この世の欲望と「この世の誇り」に陥ってしまいました（Ⅰヨハネ 2:16）。

それゆえ、多くの人は自分たちが最もよく知っていると考えるため、独自の宗教的伝統や世俗的な政府を打ち立ててきました。しかし、彼らはそうではありません（エレミヤ書10:23参照）。また、大多数の人は真に悔い改めることもないでしょう。

それゆえ、人類には神の王国が必要なのです（マタイによる福音書24:21-22参照）。

「八福」について考えてみましょう

イエスが語られた最もよく知られた一連の言葉の一つが、*山上の説教*の中で語られた「八福」です。

イエスが語られた言葉の一部に注目してください：

> 3 「霊的に貧しい者は幸いである。天の御国は彼らのものだからである。4 嘆き悲しむ者は幸いである。彼らは慰められるからである。5 柔和な者は幸いである。彼らは地を受け継ぐからである。6 義に飢え渇く者は幸いである。彼らは満たされるからである。7 「憐れみ深い人は幸いである。彼らもまた憐れみを受けるからである。」(8) 「心の清い人は幸いである。彼らは神を見るからである。」(9) 「平和をつくる人は幸いである。彼らは神の子と呼ばれるからである。」(10)「義

のために迫害される人は幸いである。天の御国は彼らのものである。」（マタイによる福音書 5:3-10）

これらの祝福の約束が成就されるのは、神の御国（マルコ4:30-31参照）であり、マタイはしばしばこれを「天の御国」（マタイ13:31参照）と呼んでいます。柔和な者が地を受け継ぎ、清い者が神を見るという約束が成就されるのは、まさに神の御国においてです。神の御国における祝福の福音を心待ちにしましょう！

神の道は正しい

真実は、神は愛であり（Ⅰヨハネ4:8,16）、神は決して利己的ではないということです。神の律法は、神への愛と隣人への愛を示しています（マルコ12:29-31；ヤコブ2:8-11）。この世の道は利己的であり、死に至ります（ローマ8:6）。

聖書は、真のクリスチャンが戒めを守ることを示していることに注目してください：

> 1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神から生まれた者であり、生み出された方を愛する者は、その方から生まれた者をも愛する。2 私たちが神を愛し、その戒めを守る時、それによって、私たちが神の子たちを愛していることが分かる。3 神の戒めを守ることは、神への愛である。そして、神の戒めは重荷ではない。（ヨハネの手紙一 5:1-3）

神の「戒めはすべて義である」（詩篇 119:172）。神の道は清い（テトス 1:15）。 悲しいことに、多くの人々は様々な形の「不法」

を受け入れており、イエスが律法や預言者を破棄するために来られたのではなく、それらの真の意味を説明し、多くの人が考えていた範囲を超えてその意味を広げることによって（例：マタイ5:21-28）、それらを成就するために来られたことを理解していません（マタイ5:17）。 イエスは、「それらを行い、また教える者は、天の御国で偉大な者と呼ばれる」（マタイ5:19）と教えられました（「神の御国」と「天の御国」という用語は互換性があります）。

聖書は、行いの伴わない信仰は死んでいると教えている（ヤコブ2:17）。多くの人がイエスに従うと主張するが、その教えを真に信じようとはせず（マタイ7:21-23）、本来あるべきようにイエスに倣おうともしない（参照：1コリント11:1）。 「罪とは、律法に背くことである」（ヨハネの手紙第一 3:4、KJV）とあり、すべての人は罪を犯した（ローマ人への手紙 3:23）。しかし、聖書は、神がすべての人に対して真の計画をお持ちである（参照：ルカによる福音書3:6）ため、憐れみが裁きに打ち勝つことを示している（ヤコブの手紙 2:13）。

神の道から外れた人間の解決策は、決してうまくいかない。千年王国において、イエスは「鉄の杖」をもって統治され（黙示録19:15）、人々が神の道に従って生きることで、善が勝利するだろう。**この世の社会が神とその律法に従うことを拒むがゆえに、世界のあらゆる問題が存在している。**歴史は、人類には社会の問題を解決する能力がないことを示している：

> 6 なぜなら、肉の思いは死であり、御霊の思いはいのちと平安だからです。7 肉の思いは神に敵対するものです。それは神の律法に従わず、また従うことさえできないからです。8

ですから、肉にある者は、神を喜ばせることはできません。（ローマ人への手紙 8:6-8）

クリスチャンは霊的なことに焦点を当てるべきであり、悔い改めと洗礼を受けた後、この時代においてそうすることができるよう、神の御霊が与えられます（ローマ人への手紙　8:9）。たとえ私たちに個人的な弱さがあったとしてもです：

> 26　兄弟たちよ、あなたがたの召しを見てください。肉による知恵ある者は多くなく、力ある者は多くなく、高貴な者は多くないのです。 27 しかし、神は、この世の愚かな者たちを選んで、知恵ある者たちを恥じ入らせ、この世の弱い者たちを選んで、強い者たちを恥じ入らせ、28　また、この世の卑しい者たちや、軽蔑されている者たち、さらには何もない者たちを選んで、ある者たちを無に帰らせ、29　だれも神の御前で、肉によって誇ることをできないようにされたのです。 30 しかし、あなたがたは、キリスト・イエスにあって神から与えられた者です。キリストは、私たちのために、神からの知恵となり、義となり、聖化となり、贖いとなられました。(31) それは、「誇る者は、主にあって誇るべきである」と書かれているとおりです。（コリントの信徒への手紙一 1:26-31）

クリスチャンは、神の御計画を誇りとすべきです！私たちは今、信仰によって歩み（コリントの信徒への手紙第二　5:7）、信仰をもって（ヘブライ人への手紙 11:6）、天を見上げています（コロサイの信徒への手紙　3:2）。神の戒めを守ることで、私たちは祝福されるでしょう（黙示録 22:14）。

なぜ「神の国の福音」なのか？

プロテスタントは、イエスを救い主として受け入れた時点で、すでに神の国を求めたのだと感じる傾向があります。　ローマ・カトリック教徒は、たとえ幼児であっても、洗礼を受けた者は教会という御国に入ったと信じています。ローマ・カトリックや東方正教会の信徒たちは、秘跡などを通じて神の御国を求め続けていると考えがちです。クリスチャンは洗礼を受けるべきですが、ギリシャ・ローマ系プロテスタントは、人類の問題を解決するために世に目を向ける傾向があります。彼らは地上のことに重点を置く傾向があります（参照：ローマ人への手紙 8:6-8）。

まず神の国を求め（マタイ6:33）ることこそ、クリスチャンにとって生涯の目標であるべきです。その目標とは、解決策をこの世に求めるのではなく、神とその御心に目を向けることです。神の国の福音が、私たちの生活を変えていくのです。

聖書は、クリスチャンがイエスと共に治めると述べていますが、それが真のクリスチャンが実際に都市を治めることを意味することに気づいていますか。イエスはこう教えられました。

> 12　「ある貴族が、王位を受け継いで戻ってくるために、遠い国へ旅立った。13　そこで彼は十人のしもべを呼び寄せ、十ミナを彼らに渡し、『私が戻ってくるまで商売をしておきなさい』と言った。14　しかし、彼の市民たちは彼を憎み、使者を送りつけて、『この人に私たちを治めてほしくない』と言った。
>
> (15)「こうして、彼は王国を受け継いで帰ってきたとき、

王国を受け取ると、彼は金を渡したこれらの僕たちを呼び寄せ、一人ひとりが商売でどれだけの利益を上げたかを知ろうとした。[16] すると、最初の者が来て言った。「ご主人様、あなたのミナは十ミナになりました。」 [17] 主人は彼に言った。「よくやった、良いしもべだ。ごくわずかなことに忠実であったから、十の町を治めなさい。」[18] 次に、二番目の者が来て言った。「主よ、あなたのミナは五ミナを儲けました。」[19] 主人は彼にも同様に言った。「あなたも五つの町を治めなさい。」（ルカによる福音書 19:12-19）

今、あなたが持っているわずかなものに忠実でありなさい。クリスチャンには、現実の王国において、現実の町を治める機会が与えられます。イエスはまた、「わたしの報いは、わたし自身にある。各人にその行いに応じて報いるためである」（黙示録 22:12）ともおっしゃいました。 神には、真に神に応答する者たち（ヨハネ6:44、黙示録17:14）のための計画（ヨブ14:15）と場所（ヨハネ14:2）があります。神の国は現実のものであり、あなたもその一部となることができます！

2016年の初頭、科学誌『サイエンス』には「群衆の力」と題された記事が掲載され、人工知能とクラウドソーシングが人類が直面する「難題」を解決できると示唆していました。しかし、その記事は「難題」とは何かを理解しておらず、ましてやその解決方法など論じる余地もありませんでした。その後登場した人工知能プログラムも、確かに世界の問題を解決してはいません。

神の真の道に従うこと以外の協力は、大洪水の後、人類が協力してバベルの塔を建設しようとしたが失敗に終わった時（創世記11:1-9）と同様に、21世紀においても失敗に終わる運命にある。

中東のような地域における世界の問題は（一時的な利益が期待されるにもかかわらず、例えばダニエル書9:27a、テサロニケ人への手紙第一5:3）、人間によって解決されることはない――私たちには神の御国の平和が必要である（ローマ人への手紙14:17）。

国際テロリズムの問題は、予想される利益にもかかわらず、国連に惑わされた者たち（参照：黙示録12:9）によって解決されることはない（参照：エゼキエル書21:12）――私たちには、神の御国の喜びと慰めが必要である。

環境問題は、国際協力によって解決されることはありません。なぜなら、世界の国々は地球の破壊に加担するからです（黙示録11:18）。しかし、それらは神の御国によって解決されるのです。

性的不道徳、中絶、そして人体部位の売買といった問題は、米国によって解決されるのではなく（参照：黙示録18:13）、神の御国によって解決される。

米国、英国、そして他の多くの国々が抱える巨額の債務は、国際的な仲介によって解決されるのではなく、最終的には（ハバクク書2:6-8に記された破滅の後）、神の御国によって解決されるのです。

無知や誤った教育は、国連によって解決されるものではありません――私たちに必要なのは神の御国です。宗教的な争いは、聖書に記された真のイエスとは無関係な救いを認める、いかなるエキュメニ

カル・異宗教間運動によっても真に解決されることはありません。罪こそが世界における「根本的な問題」であり、そのために私たちには、イエスの犠牲と、神の御国におけるイエスの再臨が必要です。現代の医学は、人間の健康に関するすべての答えを持っているわけではありません――私たちに必要なのは神の御国です。

飢餓問題は、大規模な作物の不作の危険性により世界の一部を飢饉の危機にさらしている遺伝子組み換え作物によって解決されることはない――私たちに必要なのは神の御国である。

アフリカやアジアの一部、その他の地域に見られる大規模な貧困は、終末の「バビロン」（黙示録18:1-19参照）から一時的な恩恵を受けているとはいえ、貧困の問題を解決することはありません――私たちには神の御国が必要です。イエス抜きで、人類がこの「現在の邪悪な時代」にユートピアをもたらすことができるという考えは、偽りの福音です（ガラテヤ人への手紙1:3-10）。 私たちには神の御国が必要です。

神の御国の千年期は、地上に確立される文字通りの王国です。それは、神の愛に満ちた律法と、愛に満ちた神を指導者として基盤とするものです。聖徒たちはキリストとともに千年間統治することになります（黙示録 5:10、20:4-6）。 この王国には、真に神の教会に属する者たちが含まれますが、神の王国が実際には（ローマ・カトリックであれその他であれ）教会そのものであると述べる聖書の箇所は存在しません。ローマ教会は　千年の王国の教えに反対してきましたが、終わりの時が近づくにつれて、聖書の福音のメッセージに対してさらに強力に反対するようになるでしょう。これはおそらく

メディアで大きく報じられ、マタイによる福音書24:14の成就の一助となるかもしれません。

その最終段階において、神の王国には「神のもとから天より下って来る新しいエルサレム」（黙示録21:2）が含まれ、その拡大には終わりがありません。もはや不義もなく、悲しみもなく、死もありません。

神の国の福音を宣べ伝え、理解することは、聖書の重要なテーマです。旧約聖書の著者たちはそれについて教えました。イエス、パウロ、ヨハネもそれについて教えました。新約聖書以外で現存する最古の「キリスト教」の説教も、それについて説いていました。2世紀初頭のポリカープやメリトのようなキリスト教の指導者たちも、それについて教えました。　私たち「継続する神の教会」も、今日、このことについて教えています。神の国は、聖書が示すところによると、イエスが最初に説教された主題であることを思い出してください（マルコ1:14-15）。それはまた、イエスが復活後に説教されたことでもあり（使徒1:3）、クリスチャンがまず第一に求めるべきものでもあります（マタイ6:33）。

福音とは、単にイエスの生涯や死についてだけのものではありません。イエスとその弟子たちが教えた福音の重点は、来るべき神の国にありました。神の国の福音には、キリストによる救いだけでなく、人間の政府の終焉についての教えも含まれています（黙示録11:15）。

覚えておいてください。イエスは、神の国の福音がすべての国々への証しとして世界に宣べ伝えられるまで、終わりは来ないと教えら

れました（マタイ24:14）。そして、その宣教は今まさに進行中です。あなたも、この終わりの時の最後の働きを支える一員となりませんか？

良い知らせは、**神の御国こそが人類が直面している問題の解決策であるということです。**しかし、大多数の人々はそれを支持しようともせず、聞こうともしず、その真実を信じようともしません。神の御国は永遠ですが（マタイ6:13）、「この世は過ぎ去って行く」のです（コリントの信徒への手紙一 7:31）。

神の御国の真の福音を宣べ伝えることは、私たち「継続する神の教会」が真剣に取り組んでいることです。私たちは、神の御国　（マタイ24:14）を含め、聖書が教えるすべてのことを教えるよう努めています（マタイ28:19-20）。その御国を待ち望む間、私たちは神の道を学び、それに従い、真理を信じたいと願う人々を慰める必要があります。

来るべき神の国の福音を宣べ伝えることを、あなたも支持すべきではありませんか？ あなたは神の国の福音を信じますか？

コンティニュイング・チャーチ・オブ・ゴッド
(Continuing Church of God)

Continuing Church of God、P.O. Box 109, Grover Beach, California, 93483, U.S.A. です。ウェブサイトは www.ccog.org です。

*継続する*神の教会（CCOG）のウェブサイト

CCOG.ASIA このサイトはアジアに焦点を当てています。
CCOG.IN このサイトは、インド系の人々を対象としています。
CCOG.EU このサイトはヨーロッパを対象としています。
CCOG.NZ このサイトは、ニュージーランドおよび英国系の人々を対象としています。
CCOG.ORG これは「継続する神の教会」のメインウェブサイトです。すべての大陸の人々にサービスを提供しています。記事、リンク、動画が掲載されています。
CCOGCANADA.CA このサイトは、カナダ在住の方を対象としています。
CCOGAfrica.ORG このサイトは、アフリカ在住の方を対象としています。
CDLIDD.ES 「La Continuación de la Iglesia de Dios」。これは「*継続する*神の教会」のスペイン語版ウェブサイトです。
PNIND.PH 「パトゥロイ・ナ・イグレシア・ング・ディオス（Patuloy na Iglesya ng Diyos）」。これは「神の継続教会」のフィリピ

ン向けウェブサイトです。英語とタガログ語の情報が掲載されています。

ニュースおよび歴史に関するウェブサイト

COGWRITER.COM このウェブサイトは主要な宣教ツールであり、ニュース、教義、歴史に関する記事、動画、預言に関する最新情報を掲載しています。

CHURCHHISTORYBOOK.COM 覚えやすいドメイン名のこのウェブサイトには、教会史に関する記事や情報が掲載されています。

BIBLENEWSPROPHECY.NET これは、ニュースや聖書に関するトピックを扱う英語のオンラインラジオサイトです。BNPI.NETは多言語に対応しています。

説教およびショート説教のためのYouTubeおよびBitChute動画チャンネル

BibleNewsProphecyチャンネル。CCOGのショート説教動画。

CCOGAfricaチャンネル。アフリカ諸言語によるCCOGのメッセージ。

キリスト教の信仰の諸側面を教える**CCOGアニメーション**チャンネル。

CDLIDDSermonesチャンネルには、スペイン語のメッセージが掲載されています。

ContinuingCOGチャンネル。CCOGの説教動画。

下の写真は、エルサレムにある建物（「最後の晩餐の部屋」として知られることもありますが、より正確にはエルサレムの西の丘（現在はシオン山と呼ばれてい

ます）にある「神の教会」と表現されるべきものです）の、現存する数少ないレンガの一部（後に追加されたものも含まれます）を示しています：



ここは、おそらく最も初期の真のキリスト教教会堂があった場所であると信じられています。イエスの「神の国の福音」が説かれたであろう建物です。これは、エルサレムにあり、「神の国の福音」を教えた建物でした。

このため、私たちも絶えず神に感謝しています。なぜなら……兄弟たちよ、あなたがたは、ユダヤ地方にあるキリスト・イエスにある神の教会たちの模範に従う者となったからです。（テサロニケの信徒への手紙一2:13-14）

かつて聖徒たちに一度だけ伝えられた信仰のために、熱心に戦いなさい。（ユダの手紙3）

イエスは彼らに言われた。「わたしはこの目的のために遣わされたのだから、他の町々にも神の国を宣べ伝えなければならない。」（ルカによる福音書4:43）

しかし、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて[c]あなたがたに与えられる。小さな群れよ、恐れてはならない。あなたがたに神

の国を与えることは、あなたがたの父の御心だからである。（ルカによる福音書12:31-32）

そして、この御国の福音が、すべての国々への証しとして全世界に宣べ伝えられる。そうして、終わりが来る。（マタイによる福音書24:14）